

教育テレビ番組コース
帰国研修員巡回指導班報告書

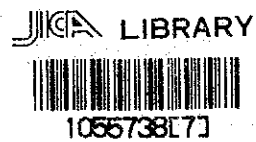
昭和59年3月

国際協力事業団
研修事業部

研・修
J R
84 - 5

昭和58年度帰国研修員巡回指導

教育テレビ番組コース
帰国研修員巡回指導班報告書



昭和59年3月

国際協力事業団
研修事業部

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 9. 18	108
登録No. 10679	79.6
	TAD

は　じ　め　に

この報告書は、国際協力事業団が実施した集団「教育テレビ番組コース」に参加した帰国研修員に対するフォロー・アップ事業の一環として、帰国研修員の所属機関等を訪問し、現地での技術指導を行うとともに、あわせてわが国で実施した研修の成果を測定し、もって、当該研修分野に係る当該国の技術的問題点及びニーズを把握するため、昭和58年10月11日から10月26日までの16日間、インドネシア及びバングラデシュの2ヶ国に派遣した巡回指導班の報告をとりまとめたものである。

本報告書により、当該分野における両国の実情、帰国研修員の活動状況、彼らが抱えている諸問題及び研修にかかる要望事項等について関係各位のさらに深いご理解をいただき、今後の研修コースの改善に資すれば幸いである。

なお、本件の実施に御協力を賜った外務省、郵政省、日本放送協会並びに現地において数々のご指導とご協力を賜った在インドネシア、バングラデシュ日本国大使館及び関係機関の皆様に深甚なる謝意を表します。

昭和58年10月

研修事業部

部長 宮 本 守 也

インドネシア



インドネシアテレビ局長室での高級スタッフとの協議を終えて



TVRI 研修所長室にて



TVRI 研修センターでのセミナー風景



ジョクジャカルタ局TV副調整室にて



ジャカルタ局テレビスタジオにて



ジョクジャカルタ局VTR室にて

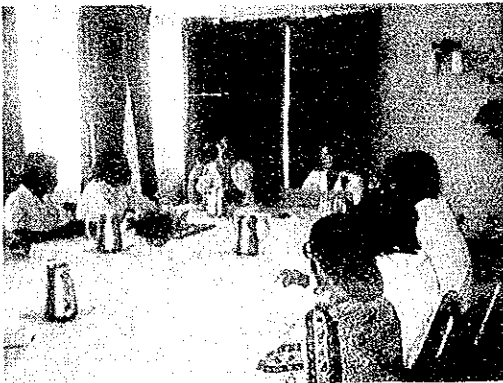
バン格拉デシュ



情報省次官補室にて

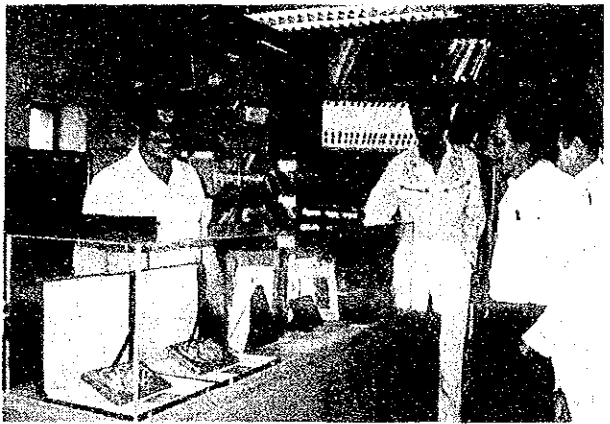


帰国研修員の案内でBTV図書室にて



セミナー風景

(ホテルインターコンチネンタル)



日本賞特別賞の賞状とたての前にて

(受賞者 Quyum 氏左端)



セミナー風景

(ホテル・インターコンチネンタル)



番組の編集をする Nawazish 氏

目 次

I. 巡回指導の概要	1
1. コースの概要	1
2. 巡回指導の目的	5
3. 指導班の構成	5
4. 訪問国及び訪問機関	5
5. 業務とその内容	5
6. 日 程 表	6
7. 帰国研修員リスト	8
II. 活動内容	11
1. 訪問機関及び面会者リスト	11
1-1 インドネシア	11
1-2 バングラデシュ	12
2. テレビ放送事情	13
2-1 インドネシア	13
2-2 バングラデシュ	18
3. セミナー実施状況	19
3-1 実施状況	19
3-2 実施内容	20
4. 帰国研修員及び関係者の研修コースに関する評価及び要望	21
4-1 インドネシア	21
4-2 バングラデシュ	23
III. テレビ局を訪ねて	26
III-1 インドネシア	26
III-2 バングラデシュ	29
IV. 総 括	34
V. あとがき	36
< 別添資料 >	37

I. 巡回指導の概要

1. コースの概要

ア) コースの内容: 本集団コースは、教育テレビ番組に携わるプロデューサー及びディレクターを対象とし、「教育上のテレビの役割り」すなわち「テレビによる教育」の重要性を再認識させるために、教育テレビ番組制作に焦点を合わせ、講義、実習、研修旅行を実施し、番組制作に必要な幅広い知識、技術、特に、企画力、演出技法等を重点的に付与することを目的としている。

研修期間は約2ヶ月間で、昭和58年度は別表1のプログラムの通り実施された。

イ) 実施実績: 本コースは、昭和38年度に開始され、58年度現在52ヶ国322名の研修員を受入れた。

38年度来の国別受入実績は別表2のとおりである。

昭和58年度 海外受託研修テレビ教育番組コース日程表

(昭和58年8月9日～9月30日)

NHK中央研修所 放送研修部

週	月/日(曜)	10:00	カリキュラム	16:30	場 所
第1週	8/ 8(月)				
	9(火)		開講式、オリエンテーション、所内見学		中 研
	10(水)		世界の教育放送の現状(研修生発表と番組視聴)(1)		〃
	11(木)		〃 (2) 日本の教育放送とその背景		〃
	12(金)		番組制作(1) ～企画と台本～、放送センター見学		〃, CT
第2週	15(月)		番組研究(1) ～学校放送番組～		中 研
	16(火)		〃 (2) ～幼児番組～		〃
	17(水)		〃 (3) ～成人番組～		〃
	18(木)		素材制作、理論と実習(1) ～ハンディクラフト～		〃
	19(金)		〃 (2) ～人形～		〃
第3週	22(月)		番組制作(2) ～制作準備と打合せ～		中 研
	23(火)		素材制作、理論と実習(3) ～アニメーション(フィルム)～		CT
	24(水)		〃 (4) ～ (ビデオ)～		NAC
	25(木)		〃 (5) ～撮影と編集～		中 研
	26(金)		〃 (6) ～ 〃 ～ 地方局見学 オリエンテーション		〃
第4週	29(月)		地方局見学(旅行日)		北海道(北見)
	30(火)		〃		〃
	31(水)		〃 (4泊5日)		〃
	9/ 1(木)		〃		〃
	2(金)		〃 (旅行日)		〃
第5週	5(月)		アニメーション補講、日本賞、NHKインターナショナル		中 研
	6(火)		制作現場見学		CT
	7(水)		〃		〃
	8(木)		〃		〃
	9(金)		〃		〃
第6週	12(月)		番組制作(3) ～音の役割～		中 研
	13(火)		放送技術の将来(技研見学)、番組制作(4) ～美術～		技研, 〃
	14(水)		放送の調査研究(放送博物館、文研、世論)、劇場中継見学		文研, 世論, 博 物館, 歌舞伎座
	15(木)		祝 日 (敬老の日)		
	16(金)		番組制作(5) ～照明～、番組制作(6)～スタジオトリートメント～		中 研
第7週	19(月)		番組制作(7)～リハーサル(ドライ)～		〃
	20(火)		〃 (8)～スタジオ制作本番～ (1)		〃
	21(水)		〃 (9)～スタジオ制作本番～ (2)		〃
	22(木)		〃 (10)～試写検討～、旅行オリエンテーション		〃
	23(金)		祝 日 (秋分の日)		
第8週	25(日)		広島関西旅行		
	26(月)		〃		広 島
	27(火)		〃 (4泊5日)		京 都
	28(水)		〃		
	30(金)		終講式		中 研

(注) 研修時間: 10:00～16:30 (原則として12:00～13:30昼食・休憩) NACはnac映像

中研はNHK中央研修所 文研はNHK放送文化研究所
 技研はNHK総合技術研究所 世論はNHK放送世論調査所
 CTはNHK放送センター 博物館はNHK放送博物館

教育テレビ番組コース受入実績

別表2

地域	国別	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	
ア	1 船					1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1		1					
	2 荷		1	2		10	1	3	2	3	1									1			
ジ	3 中華人民共和国	2																					
	4 マレーシア	1	3	2	1		1		1					1							1	1	
ア	5 シンガポール	2	1		1				1	1												1	
	6 インドネシア	1	1																			1	
	7 ベトナム	3	2	2	2	2	1	1	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	4	1	
	8 ベトナム							2	2	2													
	9 ベトナム																						
	10 ラオス																						
セ	11 タイ																						
	12 インドネシア	1	1	1	2	1			1	1	1		1	1	1	1			1	1	1	1	
ア	13 フィリピン	5	2	3	1	1	1	1	1	1	1			1									
	14 東バール		1																				
	15 パラグワイ		1																				
	16 インドネシア	1	1	1				2															
	17 スリランカ	1	1	2	2				1					1							2	1	
	18 セルシオン	1	1																	1			
	19 ケルディン																						
	20 アマゾン																						
	21 パプアニューギニア																						
	22 アルバニア																						
	23 アフガニスタン	1	1												1								
	24 インドネシア	1																					
	25 インドネシア																						
	26 トルコ		1					1		1	1	1	1	1	1	1							
	27 シンガポール																						
	28 インドネシア					1															1	2	
	29 エルサルバドル																						
	30 エルサルバドル																						
	31 パナマ																						
	32 カタール																						
	33 サウジアラビア																	1					
	34 オマーン																						
	35 アラブ首長国連邦																	2					
	36 イエメン																						
	37 レバノン																						
	38 エジプト	1																					
	39 リビア																						
	40 チュニジア																						
	41 エチオピア																						
	42 スーダン				2	1	1		1														
	43 チャド																						
	44 マリ																						
	45 セネガル																						
	46 中央アフリカ																						
	47 ナイジェリア		1			1	1	1	1	1													
	48 ガーナ					1	1	1															
	49 リベリア																						
	50 ケニア																						
	51 ウガンダ							1	1														
	52 ガーナ																						
	53 タンザニア																						
	54 ガンビア																						
	55 ニジェール																						
	56 シンパツ																						
	57 モロッコ																						
	58 スワジランド																						
	59 イギプト			1	1	1	1	1	2	5	3	3											
	60 キューバ																						
	61 エルサルバドル		3	1																			
	62 パナマ																						
	63 コロンビア																						
	64 エクアドル																						
	65 プラジ					1																	
	66 ベルギー			1																			
	67 洪リビア					1	1	1															
	68 パラグワイ																						
	69 ウルグワイ																						
	70 アルゼンチン																						
	71 チリ																						
	72 ホンデュラス																						
	73 ニカラグア																						
	74 コスタリカ																						
	75 アメリカー																						
	76 イギリス																						
	77 フランス																						
	78 オーストラリア																						
	79 パンガ																						
	計	19	21	17	14	22	11	13	14	18	12	15	14	14	15	10	11	15	12	19	21	15	
																							総計 322名

2. 指導班の目的

昭和38年度から20年間にわたって実施された本コースに参加した帰国研修員との面談及び関係諸機関への訪問を通じ、研修成果を測定するとともに、我国の当該分野の最新技術を紹介し、また併せて当コースに対するニーズ及び相手国の問題点を調査、検討することにより、今後の研修員受入事業並びにフォローアップ事業の向上、改善に資することを目的として、今回の巡回指導を実施した。

特に、近年インドネシア、及びバングラデシュは、テレビ放送網の拡充、教育番組の充実及びスタッフの訓練（人作り）に努めているが、その過程で、当コース帰国研修員の占める重要性はますます大きくなっているものと推察された。

このような背景の下に、本コースの研修内容が、当該諸国の実情に即応し、さらに研修効果の充実を図るため、当該分野関係者の意見、要望を聴取し併せて、指導、助言を与えた。

3. 指導班の構成

指導班は以下の3名をもって編成した。

担 当	氏 名	所 属
総 括	畠 添 隆 幸	郵政省大臣官房国際協力課
技術指導	伊 藤 恭 子	日本放送協会中央研修所放送研修部主査
業務調整	山 田 保	国際協力事業団研修事業部国際研修センター業務室

4. 訪問国及び訪問機関

これまでの参加国の中で帰国研修員数の比較的多いインドネシアとバングラデシュを対象とした。

上記、インドネシア、バングラデシュの在日本国大使館、JICA事務所、両国の研修員派遣窓口機関、帰国研修員の所属機関および関連施設を訪問した。

5. 業務とその内容

上記の目的を達成するため下記を主たる業務とした。

- (1) 帰国研修員に面接して研修の成果や研修に対する意見を聴取し、あらかじめ送付しておいたアンケートを回収、分析する。
- (2) 研修員所属機関および関連機関を訪問し、現地事情を把握する。
- (3) 研修員派遣取扱窓口機関にて研修員選考システム等について聴取する。
- (4) 日本の「最近の教育テレビ番組のトピックス」に関し、セミナー及び討論を展開し、日本の実情を紹介する。

6. 日 程 表

月 日	曜	訪問国	訪 問 機 関	行 動 内 容
10月11日	火	インドネシア		移動, 成田 $\xrightarrow{JL711}$ ジャカルタ (J I C A 専 門 家 菅, 柳 沢, 萩 原 氏 及 び 猪 俣 職 員 出 迎 え)
12日	水	インドネシア	ホテルインドネシア J I C A 事 務 所 大 使 館	○ J I C A 専 門 家 菅, 柳 沢, 萩 原 氏 と 日 程 打 合 せ, 及 び 放 送 事 情 の 概 要 説 明 を 受 け る。 ○ 日 程 打 合 せ 及 び 概 況 説 明 (山 村 所 長, 猪 俣 職 員) ○ 現 況 説 明 (鈴 木 一 等 書 記 官)
13日	木	インドネシア	(TV R I) イ ン ド ネ シ ア テ レ ビ 局 (Televisi Republik Indonesia)	○ テ レ ビ 局 長 以 下 イ 側 5 名, と 日 本 側 山 村 所 長 柳 沢 J I C A 専 門 家 及 び 団 員 3 名 で, 放 送 関 係 技 術 協 力 全 般 か ら 研 修 員 選 考 ま で の 細 部 に わ た っ て 意 見 を 交 換 す る。 ○ 資 料 収 集, 整 理
14日	金	インドネシア	(TV R I) イ ン ド ネ シ ア テ レ ビ 局 (Televisi Republik Indonesia)	○ セ ミ ナ ー 開 催。 帰 国 研 修 員 及 び 関 係 者 1 2 名 が 出 席。 視 聴 覚 教 材 (ビ デ オ, ス ラ イ ド パ タ ー ン 等) を 充 分 に 利 用 し, 朝 9 時 か ら 夕 方 5 時 ま で, セ ミ ナ ー 及 び 活 発 な 質 疑 応 答 が 続 いた。 ○ ス タ ジ オ で の 生 放 送, 実 地 見 学 及 び そ の 指 導 ○ 帰 国 研 修 員 及 び 関 係 者 と の 懇 親 会
15日	土	インドネシア	同 上 J I C A 事 務 所	テ レ ビ 局 施 設 視 察。 ○ 資 料 収 集, 分 析。 J I C A 事 務 所 中 間 報 告。
16日	日	インドネシア		(移 動) ジャカルタ $\xrightarrow{GA436}$ ジョクジャカルタ ○ 資 料 整 理
17日	月	インドネシア	ジョクジャカルタ 支局 ラジコ, テレビ放送訓練センター (日本の経済技術協力プロジェクト)	○ 帰 国 研 修 員 と の 意 見 交 換, 施 設 見 学 ○ ラジコ, テレビ放送訓練センターサイト視察
18日	火	インドネシア		(移 動) ジョクジャカルタ $\xrightarrow{GA435}$ ジャカルタ ○ 資 料 整 理, レポ ー ト 作 成
19日	水	インドネシア	J I C A 事 務 所 大 使 館	○ イ 政 府 宛 サ マ リ ー レポ ー ト の 提 出 ○ 調 査 結 果 報 告 (山 村 所 長, 猪 俣 職 員) ○ 調 査 結 果 報 告

月 日	曜	訪問国	訪 問 機 関	行 動 内 容
10月20日	木	タイ	バンコックパレスホテル	GA894 (移動) ジャカルタ → バンコック ○ タイ帰国研修員2名と懇談
21日	金	バングラデシュ	ホテルインターコンチネンタル	TG 321 (移動) バンコック → ダッカ ○ 日程打合(JICA事務所 石田職員)
22日	土	バングラデシュ	バングラデシュテレビ局	○ アンケート分析, 整理。
23日	日	バングラデシュ	JICA ダッカ事務所 大使館 大蔵省(ERD) 情報省 (BTV)バングラデシュテレビ局(Bangladesh Television)	現況説明(村越所長, 石田職員) 表敬訪問。新野一等書記官よりバングラデシュの現況について説明を受ける。 JICAの技術協力, 特に研修員受入に関し意見聴取。 次官補と面談。同省の業務や当コースへの要望を聞く。 帰国研修員8名と面談後, スタジオ等施設の見学。
24日	月	バングラデシュ	ホテルインターコンチネンタル	セミナー開催, 帰国研修員8名参加。 ○ セミナー風景の取材があった。 ○ 別途セミナー終了後インタビュー番組に出演(BTVテレビスタジオにて) ○ サマリーレポート作成 ○ 帰国研修員及び関係者との懇親会
25日	火	バングラデシュ	JICA ダッカ事務所 大使館	○ 調査結果報告(村越所長, 石田職員) ○ バ政府宛サマリーレポート提出 ○ 調査結果報告(新野一等書記官) (移動) ダッカ TG 322 → バンコック
26日	水	日本		JL 474 (移動) バンコック → 成 田

7. 帰国研修員リスト

(インドネシア)

NO.	NAME	YEAR ATTENDED	AGE & POST AT THAT TIME	PRESENT POST
1	Mr. Mohammad Boerhansjah	1963	31 Script Writer, TVRI-Jakarta	
2	Mr. Mohammad Tohir Azhary	1964	Lab. & Film Dept.,	Lab. & Film Dept., TVRI-Jakarta
3	Mr. Surjasunarsa Buddy	1965	Commentater, TVRI	
4	Mr. Wono Sarwono	1966	TVRI-Jakarta	
5	Ms. Grace Rorimpandey	1966	24 Announcer, TVRI-Jakarta	フィリピン在住
6	Mr. Hendra Soebroto	1967	27 Producer, TVRI-Jakarta	News Section, TVRI-Jakarta
7	Mrs. Widarto Suprapti	1970	30 Producer, Program Section, TVRI-Jakarta	Head of Regional Station, TVRI-Denpasar
8	Mr. Moh Habib Bari	1971	33 Head of Planning & Programing Section, TVRI-Yogyakarta	Head of Program Section, TVRI-Yogyakarta
9	Mr. Kamasrdin Kasah	1972	30 Head of Educational Programs TVRI-Jakarta	Head of Broadcasting Cooperation Section, TVRI-Jakarta
10	Mr. Fauzy Syafei	1973	28 Program Director & Producer of Entertainment, TVRI-Medan	News Dept., TVRI-Surabaya
11	Mrs. Ratih Afladin	1974	31 Staff of Program Production TVRI-Jakarta	Ditto
12	Mr. Agoes Thamrin	1975	28 Producer, TVRI-Jakarta	Ditto
13	Mr. Pramudiono	1976	35 Head of Educational & Culture Program, TVRI-Jakarta	Head of Program Dept. TVRI-Ujung Pandang
14	Mrs. Moedjiati Oetoro	1977	50 Producer, Program Dept., TVRI-Jakarta	Chief of Educational Program Production Section, TVRI-Jakarta

NO.	NAME	YEAR ATTENDED	AGE & POST AT THAT TIME	PRESENT POST
15	Mr. Mulyadi Widkayapraja	1980	41 Head of Program Dept., DVRI- Palemban	Chief of Educational Program Production Section, TVRI-Jakarta
16	Mrs. Agatha H.N. Lubis	1981	29 Assistant Instruc- tor, TVRI Training Center	Ditto
17	Mr. Raden Wiejayanto	1982	26 Producer, Program Dept., TVRI-Jakarta	Ditto
18	Mr. Isa Anshary	1983	30 Researcher, Infor- mation Research & Development Board, Ministry of Information	Ditto

(বাংলাদেশ)

NO.	NAME	YEAR ATTENDED	AGE & POST AT THAT TIME	PRESENT POST
1	Mr. Mustafa Monwar	1966	Pakistan TV Corporation	Deputy Director, National Broadcasting Academy
2	Mr. Mominul Huq	1973	35 Senior Producer, Bangladeshi TV	Executive Producer
3	Mr. Mohammed Zakaria	1974	48 Senior Producer	Program Manager (Retired 1980)
4	Mrs. Badrunessa Abdullah	1976	37 Executive Producer	Executive Producer
5	Mr. Quazi Abdul Quyum	1977	33 Producer	Executive Producer (Planning Organising Directing & Producing Program)
6	Mr. Nawazish Ali Khan	1978	35 Producer	Executive Producer
7	Mr. Abdullah Yusef Imam	1979	38	1983, 1 死亡
8	Mr. Kazi Siddiqui Abu Zafar Mohammad Hasan	1980	38 Producer (Script)	Executive Producer (Presentation Editor)
9	Mr. Musa Ahmed	1981	36 Producer	Executive Producer
10	Mr. Nasiruddin Yousuff	1982	31 Producer	Program Producer (Outside Broadcasting)

II. 活動内容

1. 訪問機関及び面会者リスト

1-1 インドネシア

- (1) 大使館 鈴木一等書記官
- (2) JICA事務所 山村所長, 猪俣職員
- (3) 現地派遣JICA専門家 菅, 柳沢, 萩原, 各専門家
- (4) Televisi Republic Indonesia (TVRI) 本部
Mr. R.M. Arifin
Director, TVRI

Mr. Dewabrata
Head, Engineering Div., TVRI
- (5) TVRI Jakarta Station
Mr. Sadullah
Manager, TVRI Jakarta Station

Mr. S.H. Sukanto
Head, Film, Programme Planning Dept.

Mr. Kamardin Kasah
Head, Broadcasting Cooperation and Legal Affairs

Mrs. Ratih Alfadin
Assistant for Director of Programme

Mr. Wiedjayanto
Programme Director of Educational Broadcasting

Mrs. Moedjiati Oetoro
Chief of the Educational Production Section

Mrs. Yesnil Kasakeyan
Technical Assistant on Operation

Mr. Mardanis
Chief, Technical Engineering

Mr. Sunjoto Suwanto
Head, Programming of Education

- (6) TVRI Yogyakarta Station
Mr. M. Djaslan
Manager,

Mr. M. Habib Bari
Head, Film Programming Div.
- (7) TVRI Training Center
Mr. Hoetojo Hoerip
Head, TVRI Training Center

Mrs. Agatha Helena Nurmariati Lubis
Assistant Instructor

Mr. Manan
Technical Staff

1 - 2 バングラデシュ

- (1) 大使館 大久保参事官, 新野一等書記官
- (2) JICA事務所 村越所長, 石田職員
- (3) External Resources Division, Ministry of Finance
Mr. Saharuddin Ahmed
Deputy Secretary, ERD, Ministry of Finance

Mrs. Homaira Khan
Research Officer, ERD, Ministry of Finance
- (4) Ministry of Information & Broadcasting
Mr. Hamed Shefiul Islam
Joint Secretary, Ministry of Information & Broadcasting
- (5) Bangladesh Television (BTV)
Mr. Sadduddin Ahmed
Chief Engineer, ETV

Miss Khalida Fahmi
Director of Programmes, BTV

Mr. Mustafa Kamal Sayed
General Manager, BTV

Mr. Atiqul Huq Chowdhury
Programme Manager, BTV

Mr. Mustafizur Rahman
Programme Manager, BTV

Mr. Md. Zakaria
Rtd. Programme Manager,

Mr. Mominul Huq
Executive Producer

Mrs. Badrunessa Abdullah,
Executive Producer

Mr. Nawazish Ali Khan
Executive Producer

Mr. Musa Ahmed
Executive Producer

Mr. Qazi Abdul Quyum
Executive Producer

Mr. K.A.Z. Siddiqui
Executive Producer

Mr. Nasiruddin Yusuf
Producer

2. テレビ放送事情

2-1. インドネシア

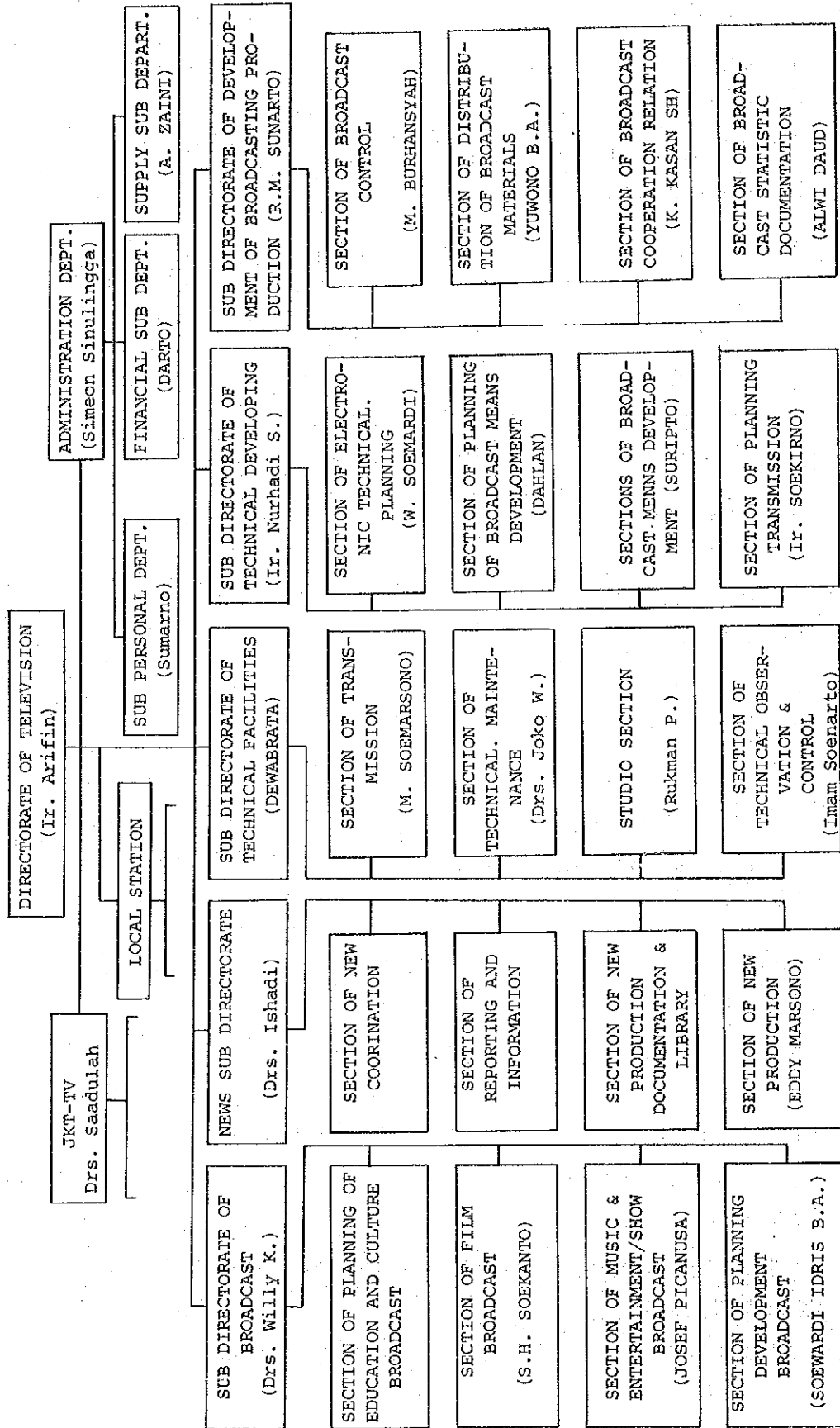
(1) 主管庁・運営体

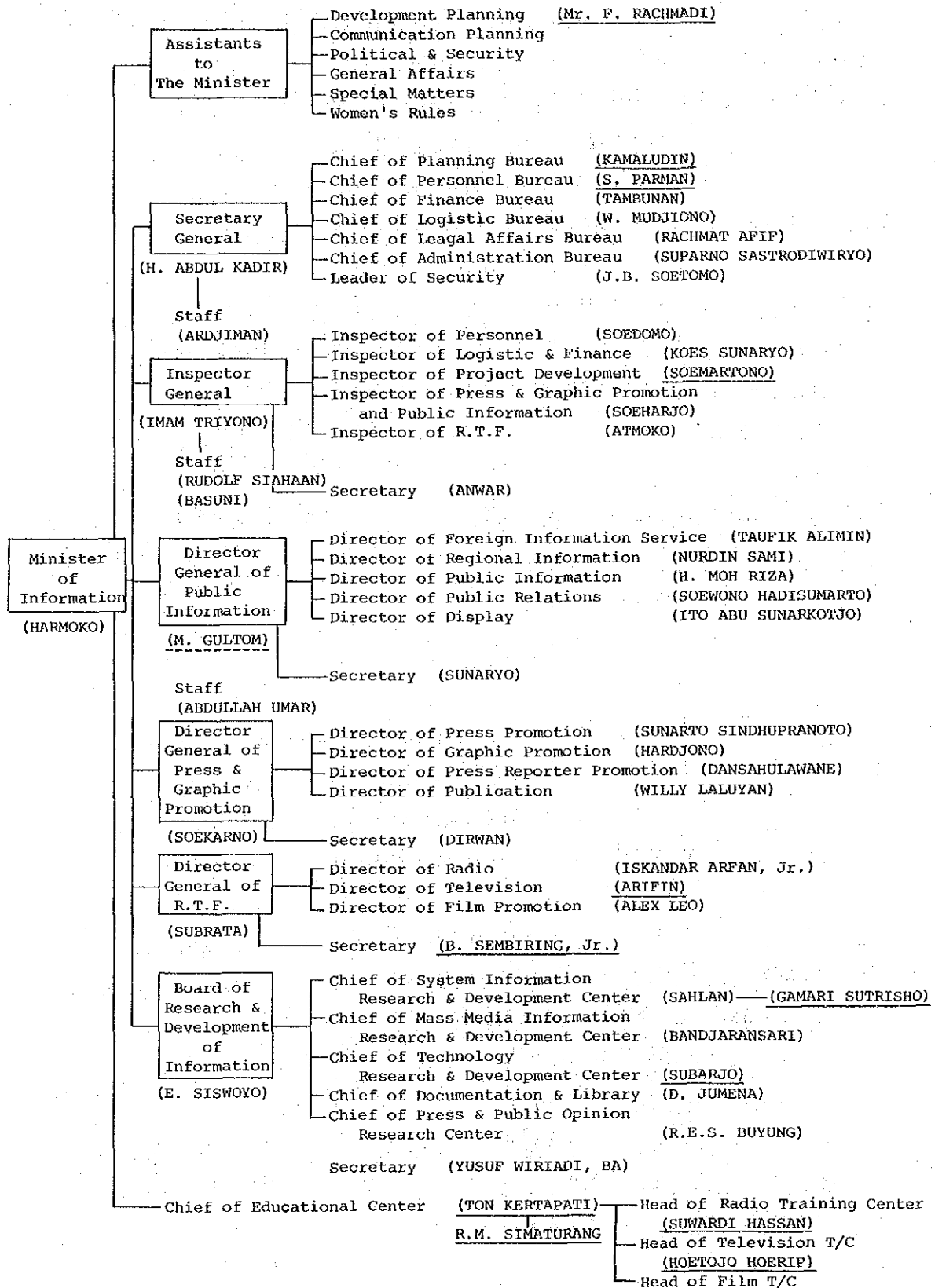
インドネシアにおける放送の主管庁は情報省である。

運営体としては、同省ラジオ・テレビ・フィルム総局の下に国営ラジオ放送（RR I）と国営テレビ放送（TVRI）とがあり、ラジオ部門とテレビ部門とは組織的に分かれている。

なお、テレビは独占事業であるが、ラジオは、この外に地方自治体、大学等による放送や民間放送がある。

情報省及びTVRI本部の組織図は、次のとおりである。





(2) テレビジョン放送の現況

インドネシア共和国のテレビ放送は、1962年に白黒放送を開始、1977年にPALシステムによるカラー放送を導入した。

受像機の所有者は、受信料の支払制度があり、その年間額は、次のとおりである。

カラー	20インチ以上	Rp. 3,000
	16～19インチ	Rp. 2,500
	15インチ以下	Rp. 2,000
白黒	16インチ以上	Rp. 1,500
	15インチ以下	Rp. 500

受像機の公式登録台数は、約3百万台であるが、この他に無登録受像機が約2百万台は存在すると見込まれ、実際の普及台数は約5百万台と推定される。

なお、広告放送を実施していたが、1981年4月から廃止されている。

ア 放送局

番組送出局である演奏所が次の9都市にあり、この外に送信所が198局運用されている。

ジャカルタ
ジョクジャカルタ
スラバヤ
メダン
パレンバン
ウジュンパンダン
バリクパパン
デンパサール
メナド

イ 職員数

1983年9月末現在の部門別職員数は、次のとおりである。

番組	805名
技術	1,893名
報道	382名
共通	1,204名
(合計)	4,284名)

ウ 放送番組

週間放送時間は、次のとおりであり、1日平均約8時間である。

日曜日	08:00~14:00
	16:30~23:25
月曜日~金曜日	16:30~23:25
土曜日	16:30~00:15

ジャカルタ中央放送局で制作・放送される番組は、全てカラーであるが、地方局制作の番組は、白黒が多い。

番組の分野別放送時間の比率は、次のとおりであり、その80%以上が自主制作番組である。

報道、情報	28%
教育、宗教	23%
娯楽、文化	47%
その他	2%

全国向けの番組は、そのほとんどを国内通信衛星により伝送している。

インドネシアのテレビ番組として特記すべきことは、40%近くがローカル放送であることである。従って、地方局による番組制作のウェイトが高い。

エ 職員の訓練機関

TVRI職員の国内訓練機関としてテレビジョン訓練センターがある。

本センターは、西独が1968年から10年間にわたりプロジェクト方式技術協力を実施してきたが、現在は自主運営されている。

本センターは、TVRIの機関ではなく、情報省直轄の訓練機関として位置づけられている。

インドネシア政府は、この外に我が国の無償資金協力により、ジョクジャカルタにラジオ・テレビ放送訓練センターを建設中である。

我が国は、本センターに対し、資金協力に引き続き、プロジェクト方式による技術協力を行なうことに合意している。

なお、既設の訓練センターと新訓練センターとの位置づけについては、前者が上級訓練を目的とし、後者は基礎訓練のための施設とすることになっている。

2-2. バングラデシュ

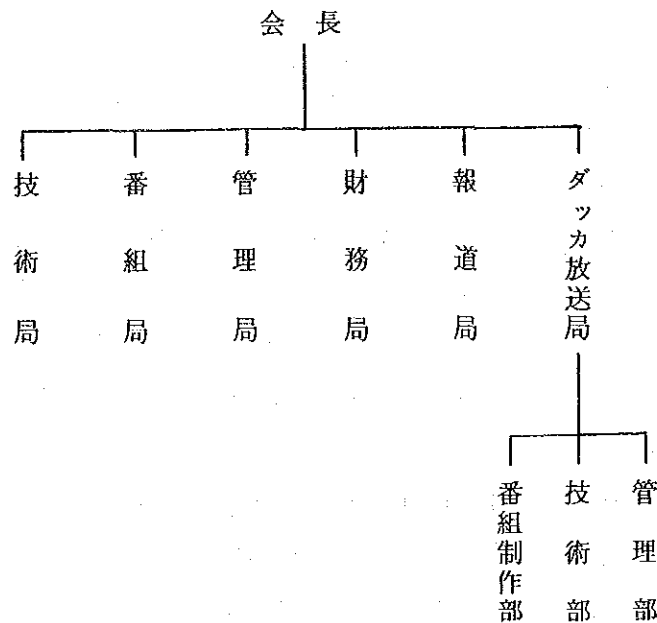
(1) 主管庁・運営体

バングラデシュにおける放送の主管庁は、情報放送省である。

放送事業は国営であるが、ラジオとテレビは別々に国営ラジオ放送(RB)と国営テレビ放送(BTV)とで運営されている。

しかし、バングラデシュは、現在、戒厳令下にあり、放送局には、その事務所が常駐しており、RBとBTVは近いうちに統合される見込みである。

BTVの機構図は次のとおりである。



(2) テレビジョン放送の現況

バングラデシュにおけるテレビ放送は独立以前の1964年に実験放送局としてスタートした。その後、我が国政府による開発調査の実施、資金協力によりバングラデシュ(当時:東パキスタン)のテレビ放送は、着実に拡充の途上にあつたが、1971年の印パ戦争により壊滅的打撃を被った。

独立後、我が国政府は、復興のために開発調査の実施、専門家の派遣、放送設備機材の供与を行なった。

カラー放送は、1980年からPALシステムにより開始されている。

BTVは、広告放送を行なうとともに受信料を徴収しているが、これらの収入はいったん国庫に収められ、運営所要額が国家予算から交付される。

受信機の普及状況は不明であるが、対人口普及率は0.1%にも満たないものと推察され、世界で最も低い普及率といえる。

ア 放送局

番組送出局である演奏所は、ダッカ放送局のみであり、この外に中継所が7局、さらに2局が実験局になっている。

イ 職員数

約1,000人の職員からなっており、そのうちの8割の職員は、ダッカ放送局に属している。

ウ 放送番組

放送時間帯は、18時から23時30分までを原則とし、日曜日は、この外に朝10時から12時まで放送している。また、ダッカ市内では、この外にもう1チャンネルを使って18時から20時まで、日曜日にはさらに9時から10時までの別番組を放送している。

番組の内容は、宗教、ニュース、教育、娯楽等、種々の分野に及び、広告放送も放送時間の1割以上を占めており、国内制作の比率は、75%となっている。

エ 職員の訓練機関

職員の国内訓練機関としては、情報放送省の下にラジオ放送職員をも対象とするBroadcasting Training Academyがある。

本機関は、UNプロジェクトとして設立されたものである。教官数は十分でなく訓練内容に応じて、ダッカ放送局の職員が出向いて教えている。

3. セミナー実施状況

3-1 実施状況

<インドネシアの場合>

日時：10月14日（金） 9:00~17:00

場所：TVRI研修センター研修室（ジャカルタ）

参加者：12名

内容：JICAのフォローアップ事業について 山田 保

日本の放送事情 島添 隆幸

日本の教育テレビ番組 伊藤 恭子

日本から持参したパネル、ビデオ、スライド、印刷教材を使って講義のあと、質疑応答。また、偏光板を紹介、贈呈。事前に送付済みのアンケート用紙に基づいて

意見交換を行った。

また、ジョクジャカルタにおいては、局長をまじえてバリ氏（1971年帰国研修員）と同様のセミナーを持った。

なお、「日本の教育テレビ番組」は、別添資料No1の「Educational Broadcasting of NHK」により進められた。

<バングラデシュの場合>

日 時： 10月24日（月） 10:00～13:00

場 所： ホテルインターコンチネンタル 会議室

参加者： 8名

内 容： インドネシアの場合と同じ。ただし、ビデオは再生機故障のため当日の視聴はできなかった。

別途、視聴してもらうため、ビデオ、偏光板ほかパターンなどを贈呈。

3-2 実施内容

それぞれ担当のテーマに基づいて状況説明のあと、質疑応答に入った。

(1) フォローアップチームの活動について

“フォローアップの意義を高く評価する。”とし、“今後も是非この活動は続けてほしい。”との声が強かった。

特に、帰国後、何年も経過しているにもかかわらず、忘れずに日本から訪ねてきてくれたことに対する感謝の言葉が述べられ、チームのメンバーを感激させた。そして、もっと期間を短縮して例えば5年間隔で巡回指導を実施してほしいとの声が強かった。

(2) 日本の放送事情について

NHKの受信料制度について関心を示し、その受信料の収納状況は、放送局の経営基盤にかかわるものであり、十分な理解が必要と受けとめていた。又、日本では民間放送との存在の中のNHKの経営が、今後、どのような道を歩むのかについても、興味を示していた。が、何ととっても1984年は、ニューメディア元年といわれる中で、日本の放送局の今後の展望について、放送衛星打ち上げと共に、どう変化していくのか大きな関心事であることは、間違いないうであった。

(3) 最近のテレビ放送

日本から持参したスライド、ビデオ、シルエット、パターン偏光板などを利

用しながら話を展開した。日本の教育放送の機能に大変興味を示し、学校の施設が十分でない両国にとって“放送を通して、教育を普及することは、教育放送に携わるものにとっては夢である。”という。そのためには、わかりやすく、楽しく視聴できる番組をどの様に制作したらよいか、そのノウハウについて、質疑が熱心に展開された。そこでは、より効果的な映像づくりのために、どうしても知恵は貴重な財産として駆使するが、それにつけても、そのための諸々の機器（手軽にアニメーションなどの応用に使えるQARや、図解説明をわかりやすくする偏光板、エフェクトマシンなどで、必ずしも大がかりな物ではなく、手造りのものも多い。）が是非、必要となってくる。「スタジオの実情を御理解の上、是非、協力してほしい」との強い懇願を受ける程であった。これについては、是非関係各位のご理解を仰ぎたいものである。

そうすることによって、継続的に実施している本コースがますます効果をあげることは間違いない。

いずれにせよ、このセミナー開催は、本研修コースに関連した新しい日本の状況理解を含めて、大変有効であったとの感想が述べられその目的は達成できたといえる。

4. 帰国研修員及び関係者の研修コースに関する評価及び要望

——事前に現地JICA事務所を通じて各自に配布したアンケート及び面談結果による——

4-1 インドネシア

(1) 日本での研修がどのように役立っているのか。

- ① 実習を通して学んだことが、よく身につけていて番組制作に生かすことができている。例えば、アニメーション制作実習。ハンディクラフトや人形制作実習など子供番組制作には欠かせない大切な実習だった。

特にインドネシアはワヤンを伝統芸術として持っているながら影絵の手法をテレビに生かすことを日本から学んだのです。ジョクジャカルタ局では、すでに10数年人気の人形番組が続くことになり、人形はそれぞれが4代目になっている。ジャカルタでは、ごく最近全国放送として人形劇を開始した。

- ② 新しいスタジオ技術を通して、よりよい視覚化のための手法—クロマキーなどは大変よかった。
- ③ ENG実習は、狭い路地へも入り込める機動性のある手法を身に付けることができてよかった。

④ NHKの教育テレビの役割の素晴らしさに共鳴した。インドネシアは、多くの島からなる国だし、学校が不十分な状況では、是非とも学びとりたいと思う点である。学校での利用を含めることは、組織的に取り組まねばならないので、まだその段階に至っていないのが残念だ。ごく最近教育省を中心にその取り組みが具体化しつつあるのは、嬉しいことである。

⑤ 小学校を訪問して、学校放送番組を授業の中うまく連動させている先生に感服した。日本における教育テレビの生き生きとした役割をみて、とても参考になった。

(2) 現在直面している悩みについて(番組制作等に関して)

① 日本で学んだ新しいことが即導入できないこと。例えば、クロマキーを使って演出することができない悩みが、ウジュンパンダン局にはある。ジャカルタ局では、できるのでローカル局の悩みになるが……………。

② 教育の普及をはかりたいが、テレビ局だけではなく教育省、情報省の方針によるので、現在では実現していないこと。

(3) 研修コースの内容に関する要望

① 研修期間は、3ヶ月が良い。

② 実習中心にカリキュラムを編成してほしい。

③ 研修員のレベルは統一してほしい。

④ 講義は、英語でしてほしい。さもなければ、日本語コースを長くして研修員が日本語でも対応できる体制にしてほしい。

⑤ 10分番組制作実習はあったが、15～25分番組のもっと長い番組制作のチャンスが欲しい。

⑥ 参加者は、15名程度が良い。アセアン諸国に枠をふやしてほしい。それは、ある程度、放送局の歴史が類似し、近接国同志、放送を通して、相互理解を深め、よい関係を保ちたいからである。

⑦ 帰国研修員を対象に日本でセミナーを開催してほしい。コースの内容の充実も大切だが、日進月歩の技術革新の中で、取り残されないためにも再度、研修のチャンスがほしい。

(4) フォローアップについて

① 専門家を派遣してほしい。

② テレビに関連する新しい機器、技術情報が述べられている紹介資料を定期的に送ってほしい。

- ③ テレビ美術，メーキャップなどの資料を送ってほしい。
 - ④ NHKは各国放送局のリーダー格なので，今後も協力関係をもってほしい。
 - ⑤ 近い将来インドネシア東部をカバーする大学向け教育番組を放送する予定なので，是非この様な時にも継続的な指導が受けられれば有難い。
- (5) 日本以外の海外で放送研修に参加したことについて
AIBD，スイス，スウェーデンなどで研修を受けている。
- (6) 各国の帰国研修員と交流しているか。
韓国，エチオピア，エジプトなど
- (7) JICAへの要望
- ① コーディネーターは，コースの専門に通じている英語力のある人が望ましい。
 - ② 日本は大変物価が高いので，滞在費の配慮をしてほしい。

4-2 バングラデシュ

- (1) 日本での研修がどのように役立っていますか。
- ① 実習が役立っている。特に，アニメーション制作，ハンディクラフト制作，人形制作実習が具体的に番組制作の中で，どの様に効果的に演出するかがよくわかり，現在，番組の中にそれらを取り入れている。子供番組，特に就学前児にはよい。
 - ② スタジオ，トリートメント実習が役立っている。例えば，クロマキーは素晴らしい。番組の中に演出効果を高めるため取り入れているが，視聴者に内容理解を促進する上でも，効果があがっている。特に，理科など複雑な教育番組の映像化にはとても良い。
 - ③ ENG実習はよかった。ロケに出かけた時も，効率的に動けるようになったし，中継ものを多く手がけるので助かっている。農村地域の生活改善のための成人教育番組では，どうしても現地取材をすることが多い。農村の人々のための番組は，身近に取材されたことでも親近感をもつし，番組もよく見てくれるので，さらに効果的である。
この種の啓蒙番組は，まだまだテレビが各家庭に普及していないので，村のコミュニティセンターのテレビ受像機で集団視聴している。
 - ④ 日本から帰ってからの番組づくりは明らかに質的に向上した。自分でもわかるし，そのような評価を部内外から受けている。視覚化の工夫が，うまく番組の流れの中で展開できていると思う。
 - ⑤ 研修を受けた翌年の日本賞（NHKの国際教育番組コンクール）に参加し，特

別賞を受賞した事は、研修が役立ったことの実績と誇りに思っている。

- ⑥ NHKの放送システム、学校放送のしくみは、大変興味深くバングラデシュにも是非取り入れたい。
- ⑦ 特に学校教育がまだまだ十分でない我国には、教育の普及に是非とも取り入れたいところ。小学校を訪問し、教室でテレビを利用しながら勉強している子供達に接し、余りの違いにショックを受けたが、大変参考になった。
- ⑧ 我国は、番組制作上、様々な問題点をかかえている。それは、余りにも物質が乏しいことからくる限界である。しかし、NHKが例えコンピューターを駆使しながら番組を制作していても、番組づくりの原点は手造りであることを研修から学んだことである。つまり、できる限り、安い値段の材料を身近にあるものから見つけ、アイデアで勝負することをアニメーターから聞いた時、目がさめる思いがした。たとえ、何がなくても我々には考える頭がある。これを最大限の武器として勝負したい。

(2) 現在直面している悩みについて(番組制作等について)

- ① 紙1枚にしても貴重な我国では、演出上必要なテロップ、パターンなどの用紙が十分でないこと。
- ② 機器が不足しているため、日本からの援助をお願いしたい。特に偏光板、アニメーション制作用機器。

(3) 研修コースの内容に関する要望

- ① 研修期間を延長したらよい。最低3ヶ月は必要。
- ② 実習を増やしたらよい。新しい演出技法はどんどん進歩しているから。
- ③ 講義より、討論、実習時間を多くしたらよい。
- ④ 小学校見学、NHK地方局見学、NHK放送センター制作現場見学を是非続けたい。
- ⑤ 講師も、研修員も英語力を身に付けた人であってほしい。そうでないと、討論の際、共通理解にたって十分意志疎通がはかれない。
- ⑥ 研修員のレベルは、統一されていることが望ましい。
- ⑦ 若いプロデューサーにも研修参加のチャンスを与えてほしい。
- ⑧ 2 Weeks Brush-Up Seminar が開催できないか。
- ⑨ 10年に1度の割合で、帰国研修員をまじえてMeeting か Seminar が持てないか。これは相互に協力仕合える関係を放送局間に持つことになり、さらに強力な友好関係が保てるのではないだろうか。技術革新の激しい中で再研修は是非

やってほしい。

(4) フォローアップについて

- ① 専門家の現地指導をおおぎたい。
- ② 新しいテレビ情報（特に教育番組制作に必要な価値ある情報）を定期的に送ってほしい。
- ③ 新しい技術機器，特にソフト面について——アニメーションなどの機器援助をお願いしたい。

(5) 日本以外の海外で放送研修に参加したことについて

ほとんどの帰国研修員が，その他の国の研修に参加している。マレーシアのAIBDが最も多く，中にはコースは違うものの2回もAIBD研修を受けているものもいる。そのほか，フランス「8mmシネマ演出研修」，AIBDが主催したインドネシアのTVRIでの研修を受けた者もいる。

(6) 各国の帰国研修員と交流しているか。

誰でも最低1～2名と交流しているものの，年月を経るにつれてだんだん疎遠になっていくようである。交流を持っている国は，インドネシア，エジプト，ブラジル，リベリア，スリランカ，タイである。

(7) JICAへの要望

- ① 昼食は準備してほしい。時間が無駄なので。
- ② コーディネーターは，「教育テレビ番組コース」のことを良く知っている専門家であってほしい。
- ③ 技術革新の激しい現在，再研修を受けたい。当面は，上級コースへの参加を希望する。
- ④ 若手プロデューサーの参加できるコースの新設を望む。
- ⑤ 帰国研修員対象に2週間セミナーを開催してほしい。
- ⑥ 帰国研修員を10年ごとに集めてセミナーを開催してほしい。
- ⑦ 同窓会を日本で開催してほしい。

Ⅲ. テレビ局を訪ねて

Ⅲ-1 インドネシア

(1) 高い定着率を示す帰国研修員

20年にわたる教育テレビ番組コースの歴史は、18名のインドネシア研修員の氏名を残している。そのうち、現在も放送関係の仕事に携わっているものは、14名で78%の定着率となっている。このことは、帰国後他企業へ転職することの多い国もある中で、日本で学んだことが国の仕事の中に生かされ、定着していることをも意味しているといえよう。

ジャカルタ局では、帰国研修員が制作した番組で小学生向“正しい知識”の生放送を見学した。これはクイズ形式をとり、3つの小学校の代表3名が校長先生に引率されて出演する。審査員が回答の正否を判定し、得点の多いグループが優勝する。スタジオは小学校の応授団が見学している。いわゆる公開番組の1つのパターンをなしている。カメラ3台で、ほぼ固定状態で、時折、出演者のアップをとったり、会場の見学席の観客をパンするという比較的シンプルなカメラワークである。得点を記入するボードは大きな黒板に白墨でFD（フロアディレクター）が記入してゆく。出題にあたって女性の司会者が、問題を読みあげるが、それと同時に問題はパターンに地図がかかれています。モニターを通して出演者が見て確認して答える。シンプルな地図はグレイのパターンに黒で描いてある。音楽の問題では突然FDがさっとピアノへ向う。特に、そのためのピアニストは頼んではない。曲が終るとそのピアニスト兼FDは、立ち上り、右手を大きくあげて司会者へのキュー出し。客席へ拍手の合図。そして、黒板へとんでいき得点を記入。

出演者の小学生たちは、「パンチャシラの原則は？」との質問に、さすがインドネシアの共通の理解を促進するものだけに、3グループがいっせいにブザーを押す。その中で最も機敏な人、唯一人の女子の代表によって解答され、その活発な女子リーダーのグループが優勝した。こうした、相互に適度の競争心を奮いたたせて、知らず知らずのうちに知識を得ていくこと、そして一定の規律を保ちながら共同作業をすることも学ぶ。つまり1校3人の生徒たちは、その問題を相談してからリーダーが回答をする。必らず、リーダーが取りまとめることを視ている小学生たちは、そのシステムも含めて学んでいくのである。

セットは、特にデコレーションはなく番組名が楕円形のパネルの中にそのタイトル文字が描かれている。フロアは、その日の朝ぬりかえたもの。毎日、違う番組を放送するので、午前中は、スタジオの整備を行い、セットの仕込みをする。放送開始時

間は、平日は、16時30分から23時25分まで。(番組表は別添資料②参照)日曜は、8時~14時までの放送が加わる。生放送は、すべて、カラー。自主制作は、88%。1日平均約8時間の放送で、残り12%は外国番組である。12%の番組の80%は外国プロダクションからレンタル又は購入。10%はABU加盟国からの提携。残り10%は外国機関との交換番組。ジャカルタ局以外の8地方局ではほとんど白黒。又、テレビスタジオを教室に見たてのクラス授業風景としての音楽教育番組はTVティチャーがパネルに音符を書き、楽器を用いてその音をとってゆく。そして、音階を教えている。その楽器はどのようにできたのか、そのプロセスはENG(Electronics News Gathering)取材によるインサート。情報量も豊かに、番組が展開されていく。カラー番組として色彩についても配慮されている。

(2) テレビ番組はすべてが教育

インドネシアの場合、すべての番組に教育的要素を含めて、社会全体の識字率のアップに寄与していきたいという目的をもっている。日本のように教育番組が系統的に編成されているというわけではないので、多くはいわゆる単発として放送されることが多い。これがより系統的に放送されるようになれば、そしてテレビ受像機がもっともっと普及すれば現在2部授業をしている学校数の不足から生ずる就学率の低下もくい止めることができるかも知れない。近々、組織的に学校放送の準備等が教育省を中心に進められると聞く。

前述小学生のための番組プロデューサーは、1982年の帰国研修員 ウイジャンント氏であった。ウィジャンント氏は、翌日には、女性番組制作のため、効外のENGロケに出かけたのであるが、これも「日本で学んだ実習が役立っている」と誇らしく語ってくれた。むろん、日本で学んだことすべてがTVRIのスタジオ設備や映像化手段のソフト面での対応にはまだまだ十分とはいえない。が、知恵を使って、工夫して、アイデアでの勝負に挑みたいと抱負も見せてくれたので、今後の改善に努力してくれるだろう。

(3) 人形劇が人気番組

ジョクジャカルタ局では、放送部長バリ氏(1971年)が、「私は帰国後、日本で学んだテレビ人形劇に、感銘をうけ、それからずっと自分で人形劇の台本を書き、連続ものの放送を続けていますが、とても、よくみられています」そして、「シルエットなどの手法をテレビに利用するのはインドネシア、特にここ、ジョクジャカルタの伝統芸術にそのルーツを思いだすおもいです。」と語ってくれた。「特にジョクジャカルタはインドネシアの教育の中心ですから、教育放送に力を入れていきたいのです

がまだ十分ではなく残念です」というもののこの局では教育放送は全局平均23%よりも多い48%を占めている。

ここでも、日本での研修が役立っていることを繰り返えし、聞かされたそしてテレビスタジオ、副調整室で女性の活躍が目立ったのが印象的であった。

研修員が来日時に自分の作品を持参するようにとGIにもその旨記載しているものの、インドネシアの番組は数多くはないので、残念ながら余り視聴の機会はなかった。しかし今回、フォローアップチームとして参加して実際にスタジオを訪ねて、またホテルのテレビを通して見る限り、局としては、限られた条件の中で、研修コース参加20年間の積み重ねの上になら、それなりによく頑張っているとの印象をもった。

当然、まだ改善していくべき点はいくつか散見できたので、その点に関しては、セミナー時にも、また帰国研修員との懇談の場においてもアドバイスをする機会をもった。いずれにしても、実際に彼らの仕事をしている状況を直接視察しながら質疑ができて、本当に今このコースに求めなければならぬいくつかのことを肌で感じることができたことは大変有意義であった。是非とも、このコースのカリキュラムをより良いものにしてゆくことによって、今回の成果を生かしていきたい。20年を経過したこのコースではあるが彼らの国々の発展の度合がゆるやかなカーブで上昇している現在、彼らからも指摘があるように、まだまだコースを継続する必要性を痛感した。また、さらに、上級コースの設置を望む声を受けて、そのことを真剣に考える段階であることも関係各位に進言し、今後の国際協力の中でその成果が反映されることを期待したい。

(4) 喜ばれているKinuta

とかく、協力関係は、ハード面が優先している傾向があるが、ソフト面についての機器整備も同時に考慮されるよう、今後の技術協力に対する希望もあったこと、それに加えて、フォローアップとして、定期的に、テレビ演出技法を含めて、新しい情報が得られること、及び帰国研修員を対象にブラッシュアップセミナーを設置して欲しいことの要望もあったことを付記しておきたい。

いずれにしても、今回、20年前の研修員から「NHKの砧寮は今どうなっていますか」と尋ねられたことは、当時、NHK中央研修所付属砧寮(研修所から歩いて5分)に起居していたことから、砧の思い出は一層強かったものと感じているようだった。そして、その地名から命名されたNHKのフォローアップとして年1回発行の英文誌を「毎年楽しみにしている」という声は、とても嬉しい手ごたえのある反応だった。

Ⅲ-2 バングラデシュ

(1) 注躍する帰国研修員たち

バングラデシュは、ダッカのみに放送局があり、帰国研修員はすべて同じBTVで仕事をしているため、常に日本で学んだ事を話し合い相互に協力しているということである。帰国研修員9名中、現在も同じBTVで活躍しているのは6人。東パキスタン時代の参加者Mr. MUSTAFA MONOWAR は現在National Broadcasting Academy の Deputy Director で放送人の育成に当たっている。従って日常的にもすぐ連絡がつくので、情報交換も比較的良好に行われている。さて、BTVの建物は、ホールも含めて、立派に機能していた。様々な障害を乗り越えて、できあがったホールでは、音楽番組を収録していた。副調整室では、サリー姿のVE女史(Video Engineer)が、画面調整を行っていた。かつて、図書室はスペースだけで書籍は床の上に並べられていたという話を聞いたが、現在は、書架にきれいに整理されている。「図書室は当然書架に本が格納されているもの」という認識がしばらく前まで、ここBTVでは考えられなかったという。何とか手に入れた書架は宝物なのである。「ものがない」ことの悩みは、番組制作上でもことあるごとに出てくるが、彼らにとっては、深刻なのである。

(2) 熱気のこもるセミナー

セミナーは、フォローアップチームの宿舎 Inter Continental Hotel の会議室で開催したが、その模様をBTVのENGクルーが取材に来た。ニュース・セクションのメンバーの取材だった。(Electronics News Gathering)カメラマン、助手、照明と3人のメンバーは手ぎわよく撮影していった。夜、ホテルでテレビのスイッチを入れると、8時のベンガリ語のニュースと10時の英語のニュースで紹介された。うまくコンパクトにまとめたニュースの扱いだった。さらに、「日本で学んだ研修員の活躍ぶり」についてチームの3人は、テレビ出演の依頼を受けた。帰国研修員のQUYUM氏(1970年)らのリクエストである。彼は、日本賞コンクールでも入賞しているリーダーシップのとれるプロデューサーである。聞き手は元BTVプロデューサーで現在はラジオ・テレビ研修所の教官であった。BTV総局長室で、打合せの後、メーキャップルームへ。男性の美粧師であった。対談番組であるし、ごく簡単にファンデーションをぬられ、パフでおさえる。

(3) バングラデシュでのテレビ出演

スタジオでは、セットが2はい組まれてある。明らかに対談番組用のセットは、椅子が4つとテーブルに違いない。その左にはドラマ用セットが組まれていた。リハー

サルなしのままにぶっつけ本番。カメラ3台が出演者に向う。インタビュアーには、マイクが1つテーブルに用意されているが、ゲスト3人つまりチームの3人には、ブーム・マイクが頭上を動く。テーブルの高さがどうもゲスト3人にとっては、不安定であった。ただ、テーブルと椅子のみ、それだけのセットのためか、何かかたい雰囲気になる。時折、ブームマイクが行ききする状況を感じながら話は展開してゆく。

15分の番組だが幸いなことに機器によるトラブルのNGもなくスムーズに終わった。収録を終えると、フロアーからかけ寄る人々。テレビ技術コースの帰国研修員たちだった。無事、収録を終え、QUYUM氏は「ビデオを再生します。副調整室へどうぞ。」ということで試写が始まる。カラーのはずなのにモニターは白黒。彼は「カラー再生ができるはずなのに……………」といいながら「どうもすみません。白黒しか出なくて……………」ととても恐縮する。プレイバックはうまくいかなかった。「番組を放送する時は必ず情報省のチェックを受けることになっているので……………。これはOKになるはずですが。」と軍事政権下の複雑さを、その副調整室のちょっとした会話から感じる思いだった。すでに放送済みのニュースとこの番組をビデオに収録して日本へ持ち帰りたい旨、伝えると「準備する」とのことだった。が、帰国までに間に合わず、いずれ、別送してくれることになったのである。が、いまだに日本に到着していないのが残念である。スタジオには、番組制作できる機器は整備されているので、常にそれが機能する状況にもっていけるようにしておかなければいけない。そのためにスタッフ一同、かなりの努力をしているということだった。

(4) 放送が果す教育の普及

識字率71%(女子32%)、中等教育25%、総人口の全就学者比率12.2%という状況の中で、放送が果す教育普及の役割は大きい。その様に考えられながらもいまだ十分な浸透が行なわれていない中でもますます教育放送の役割は大きいことの認識をもつBTVのプロデューサーたちは、農村地帯にもロケに出かけ、生活の近代化へ向けての啓蒙番組制作に力を注いでいる。WHOから「非衛生国」と指定されているこの汚名を早く返上するためにも、衛生面で注意すべきこと、食生活の改善、自らの生活を支えるための技術習得、家庭生活のあり方などをテーマとして生活改善キャンペーンともいべき放送を行っている。むろんテレビ受像機が日本のように各家庭に普及しているわけではないので番組は、コミュニティーセンターに集り、共同視聴をしている。広い意味での教育番組として、バングラデシュの近代化をはかる努力をしているプロデューサーたちは、日本での再研修を強く望み、是非そのチャンスを与えてほしいと懇願される程であった。

情報量の少ないバングラデシュには、英文誌“Kinuta”は、やはりとても貴重な資料だという。サリー姿のAbdullak 女史が、だきしめるようにかまっていたすりきれそうになった何冊かの“Kinuta”。こんなにまで、大切にしてくれているなら編集にも熱が入ろうというものです。手ごたえを十分感じたフォローアップだということであらためて知らされた。

インドネシア



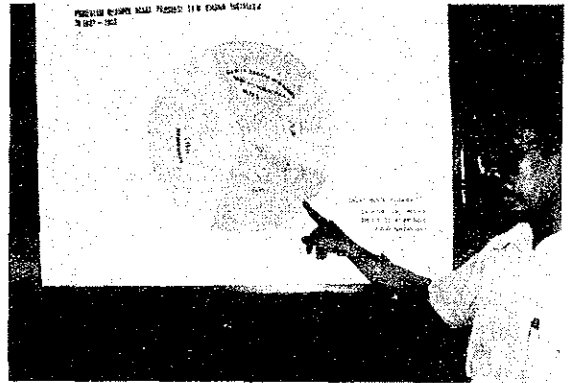
ジョクジャカルタ局スタジオにて



ジョクジャカルタ局スタジオにて



ジョクジャカルタ局前にて



ジョクジャカルタ局にて放送番組カテゴリー別円グラフを説明するバリ放送部長



ジャカルタ局スタジオにて



ジャカルタ局スタジオにて

ハングラデシュ



BTVスタジオにて



帰国研修員招待の昼食会 レストラン前にて



テレビ出演直前のメーキャップ



ラジオ、テレビ研修所副所長となった
Monowar 夫妻と



BTV中継車前にて



中継車前にて，“Kinuta”をかえる
Abdullah女史（左）とZakaria氏（右）

IV. 総 括

教育テレビ番組コースは、NHK中央研修所が開設されて間もない1963年から続けられてきており、JICA集団研修の中でも屈指の歴史を有し、1983年までに322名の帰国研修員を輩出している。

今般、本コースの巡回指導対象国としてインドネシア及びバングラデシュを訪問した。両国とも我が国との結びつきが非常に深く、いずれも日本が最大の援助国となっており、放送分野においても、その例にもれず、経済協力、技術協力、両面にわたって多くの実績を有している。

両国のテレビ放送は、国営であり、番組内容は多岐にわたっているが、ほとんどの番組に社会教育的要素が含まれているという点で共通している。NHKのように教育番組が系統的に編成された純粋な教育放送というものはなく、多くは単発的に放送されている。いずれの国の関係者も教育において放送が果たす役割は十分に認識しているが、種々の制約から日本のような教育番組は、実施に至っていない。しかし、インドネシアにおいては、近い将来、実施のための具体的話合いが情報省と教育省の間で進んでいるとのことであった。

帰国研修員は、一様に教育テレビ番組コースの有用性を高く評価しており、単に制作手法の知識習得のみならず日本での生活の一コマ、一コマが強く印象に残っている様子で我々の訪問で記憶を新たにしていた。帰国研修員及びその所属機関の関係者との意見交換においても、本コースへの参加の機会が継続されるよう強い要望が出された。

コースの改善意見又は要望事項として特に多かったのは次の4点である。

- ① 制作実習の割合を増やして、その分研修期間を長くする。
- ② 帰国後、定期的に最新の関連情報を提供して欲しい。
- ③ 日本ですぐれた研修知識を取得して帰国しても、それを生かすための機材が不足している。
- ④ 一定の年数を経た帰国研修員に再研修の機会を与えて欲しい。

①についての有用性は十分理解出来るが、多くの人手と経費を要する問題である。しかし、多数の帰国研修員が希望している以上、前向きに可能性を検討の必要がある。

②については、NHKは、1年間の研修実績及び最新の関連情報を掲載した“KINUTA”という冊子を、毎年、全帰国研修員を対象に送付している。この冊子は日本での研修の現況を理解することが出来て、非常に重宝がられている。しかしながら彼等が希望しているのは、これに加えて、専門分野の動きを知り得る情報雑誌の提供である。日本とは比較するすべもない程情報過疎の環境下にある彼等に見れば、もっともな要望であろうが、ぼう大な予算を要する問題でもあり、なかなか困難と思われる。

③については、日本でいろいろな機材を使ってすぐれた知識を学んでも、帰国してから実行できる機材が揃っていないという悩みは、何もこのコース特有の問題ではないであろう。しかし、テレビ放送の場合、演出効果を高めるための機材は放送機器に比べれば、金額はきわめて僅少であるにもかかわらず、放送局においてもその必要性は理解しながらも軽視されがちである。このような現状をふまえて、日本での研修をより効果あらしめるため、機材供与の可能性を検討することが望ましい。

④については、日進月歩する現代社会においては、日本で得た知識をbrush-upすることは重要であり、また、本分野における研修ニーズが増えてきていることも勘案すれば、現在のコースを初級と上級とに分ける等して対応能力を高める必要があるだろう。

V. あ と が き

教育テレビ番組コースは、昭和58年度までに322名の研修員を受け入れ、参加国数は52ヶ国に及んでいる。

これら、帰国研修員が、どのような環境で、どのような問題を抱えながら、自国の教育テレビ放送事業の発展に取り組んでいるかについて、把握してみたいということは、かねてから希望していたところであった。

このような時期に、本巡回指導が、2ヶ国にわたって実施され、訪問国の帰国研修員と親しく会うばかりでなく、当該分野の指導者達との会談の機会を得、併せて各国のテレビジョン放送事業の実情及び技術水準を直接知り且つ指導することが出来たのは、極めて有意義であった。

当巡回指導班を企画された関係機関の各位に厚く謝意を表するとともに、現地で数々の御便宜をはかっていただいた在外公館、JICA事務所の各位に深く感謝の意を表する。

また、調査対象国ではなかったが、フライト便の都合で立ち寄ったバンコックの在外公館に思いがけない御世話に預かったことについても併せて深謝いたしたい。

本報告書が今後の技術協力の発展に幾分たりともお役に立てば幸いである。

昭和58年10月

巡回指導班

島添隆幸

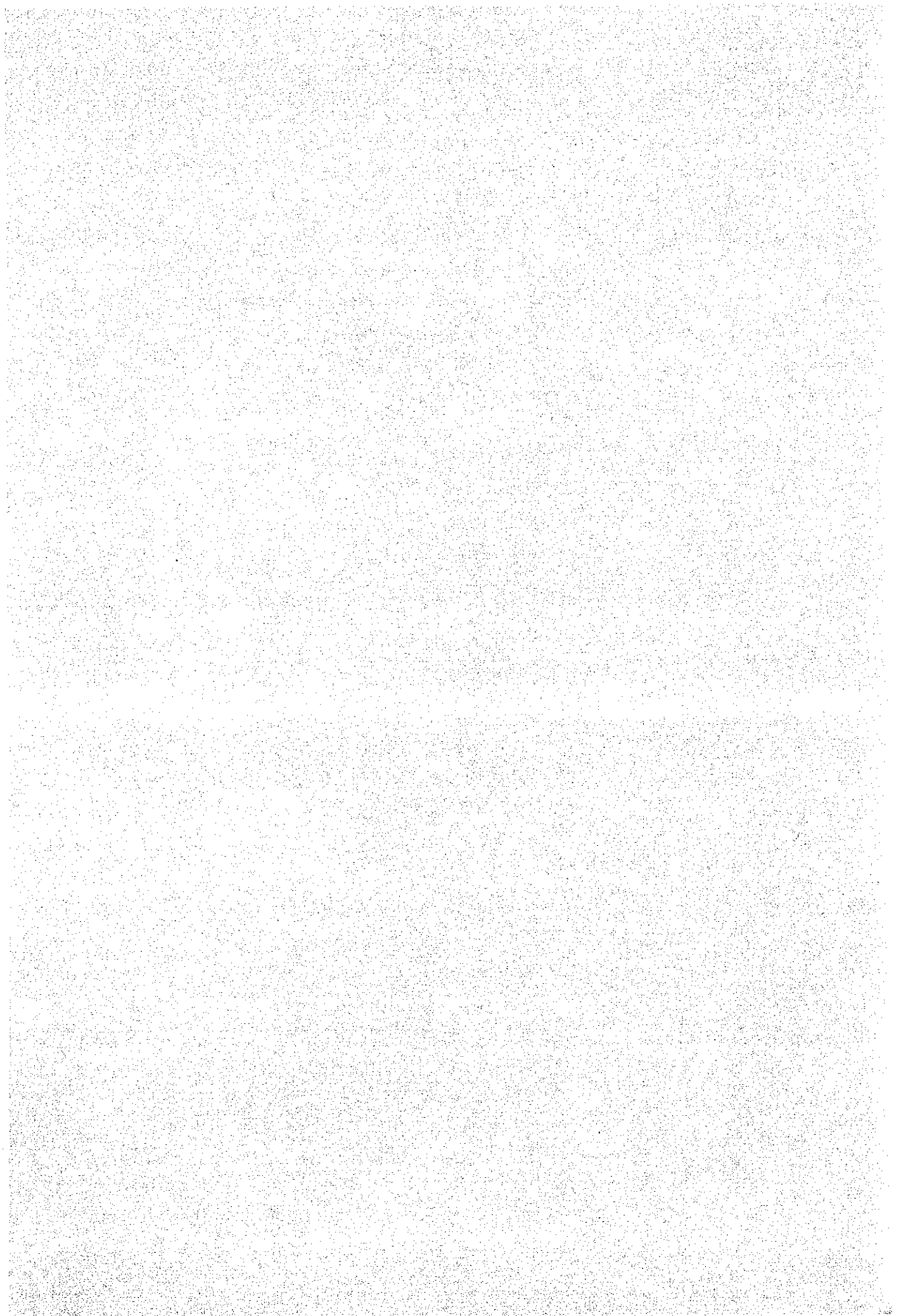
伊藤恭子

山田 保

<別添資料>

目 次

資 料	1	Educational Broadcasting of NHK
資 料	2 - 1	インドネシア番組編成表
	2 - 2	バングラデシュ番組編成表
資 料	3 - 1	インドネシア政府宛提出したチームのサマリーレポート
	3 - 2	バングラデシュ (同 上)
資 料	4	Questionnaire



Follow up team from Japan
Educational TV program production course

Oct. 11 - Oct. 26, 1983

Indonesia, Bangladesh

Educational Broadcasting of NHK

By Kyoko Ito
Senior Officer
Production Training Division
Central Training Institute
NHK

1. Outline of NHK

2. NHK's Educational Broadcasting

- 1) Standards for Educational Programs in General
- 2) Standards for School Programs
- 3) Standards for Children's Programs
- 4) Standards for Cultural Programs

3. Programs for Schools

- 1) Outline
- 2) Planning of Programs
- 3) Program Schedule of School
Broadcasting for 1983
Educational TV Network
- 4) Research System
- 5) School Program Utilization and Results
- 6) Textbooks

4. Programs for Correspondence Education

- The Correspondence Education in Japan -

- 1) Outline
- 2) Present Statuses of Correspondence High School
- 3) Senior High School Course of NHK
- 4) Program Schedule of Senior High School Course for 1983
Educational TV Network

5. NHK Gakuen

Correspondence Senior High School

- 1) Organization
- 2) Students
- 3) School Facilities
- 4) Cooperation Schools
- 5) Educational Broadcasting
- 6) Curriculum of the NHK Gakuen
Correspondence Senior High School

- 7) Report
- 8) Regular Schooling
- 9) Examination
- 10) Study Term
- 11) Annual Expenses
- 12) Special Course Student System
- 13) Correspondence Courses for the Public in General

6. Social Education Programs

- 1) Basic Concept of Social Education Programs
- 2) Foreign Language Lessons
- 3) Programs for Hobbies
- 4) Programs Related to Agriculture, Forestry and Fishery
- 5) Programs for Children
- 6) Programs for Women
- 7) Programs for Young People
- 8) Programs for Business Management
- 9) Science Programs
- 10) Cultural Programs
- 11) NHK Special

7. The Japan Prize

International Educational Program Contest

- 1) What is "Japan Prize"?
- 2) Prizes of the Japan Prize Contest
- 3) The Japan Prize Circulating Library

8. Screening

- 1) Slides

"Educational TV Program Production Course 1983 in Summer" which was conducted by NHK Central Training Institute at Kinuta, Japan.

- 2) Video

* "Programs" made by participants
1983 in summer

* "Together with mama" - Program for Infant -

Broadcast 9:30 a.m. to 9:55 a.m.
Monday through Saturday

Rebroadcast 5:30 p.m. to 5:45 p.m.
Monday through Saturday

- General TV Network -

* "Songs for Everyone"

Broadcast 9:55 a.m. to 10:00 a.m.
Monday through Saturday

Rebroadcast 2:25 p.m. to 2:30 p.m.
5:45 p.m. to 5:50 p.m.
Monday through Saturday

- General TV Network -

* Arithmetic for 4th Grade Primary School"

Numbers and Forms

- Smart ways of putting things in order -

Broadcast 11:15 a.m. to 11:30 a.m. Tuesday

Rebroadcast 10:15 a.m. to 10:30 a.m. Friday

- Educational TV Network -

* -- Human Body - Breathing --

Broadcast 1:45 p.m. to 2:00 p.m. Monday

Rebroadcast 11:45 a.m. to 0:00 p.m. Wednesday

10:45 a.m. to 11:00 a.m. Friday

- Educational TV Network -

9. New Techniques for Visualization

- 1) Handicraft
- 2) Puppet
- 3) Caption
- 4) Animation-Film, Video
- 5) Computer Graphics

10. New Media

- 1) TV Sound Multiplex Broadcasting
- 2) Teletext Broadcasting

- 3) Satellite Broadcasting
- 4) Emergency Warning Broadcasting
- 5) High Definition Television (HD-TV)
- 6) Still-picture Broadcasting
- 7) Facsimile Broadcasting

"Numbers and Forms" - arithmetic program for the 4th-graders at primary schools
 "Smart ways of putting things in order"
 Broadcast on Sept. 16 and 30 (Fridays)

Aims of the program

Think about the methods of classifying various things and facts in such a way as to suit the respective purposes of using the results of such classifications.

Content of the program

1. Read a table containing classified data from two different points of view.

A Survey about Injuries

	Scratches	Cuts	Bruises
	(Numbers of persons injured)		
Boys	10	5	3
Girls	8	6	2

This table does not clarify:

- ° What types of injuries and
- ° at what sort of places one suffers most frequently.

Then, what kind of a table would best give us such information?

2. Think about the method of classification - in the cases where there are overlappings.

- i) Think about the methods of classifying the records in rope-jumping

Records in Rope-jumping

	Cross jump	Double jump	Reverse jump	One-foot jump
(Name of girls)				
1 Eri Ito	2	1	30	20
2 Yumi Ito	30	1	20	10
3 Naoko Urayama	30	1	20	40

This table does not clarify as to how many of the entire class can do

either of the cross-jump or the double-jump.



Think how you can classify records and draw up a table from which one may know at a glance the level of skill in rope-jumping of the entire class. For example, you could:

- Revise the table or
 - make a table in which the records are given separately on cross-jump and double-jump.
- ii) Think if you cannot make use of the table on the 'Injury survey'.
- What about replacing the words "scratches" and "cuts" with "cross-jump" and "double-jump"?

	Double-jump	Cross-jump	Can't do either	Total
	(Numbers of boys or girls)			
Boys	7	12	1	20
Girls	6	15	2	23



- This is odd, because, whereas there are only 17 boys in the class, the table shows the total as "20" which is 3 too many.
- It is odd in the case of the girls, too. Whereas the actual total of the girls is 18, the table says "23" which is 5 too many.



Why? We have checked so carefully, though.

- There are those who can do both the double-jump and the cross-jump.
- Yet, we have counted the number of persons separately for double-jump and for cross-jump.



Then, what item should we add to this table?

"I can do the cross-jump but not the double-jump" (a boy say)

"I can do the cross-jump but not the double-jump" (a girl says)



(List up the items of classification)

- a) Can do both
- b) Can do the cross-jump but not the double-jump
- c) Can't do the cross-jump but can do the double-jump
- d) Can do neither

↓

- Now we have the classified items but in what way should we put them together?

iii) Let's take a look at various kinds of tables and see if there isn't any that we might make use of in preparing our table about the 'rope-jumping records'.

'Injury' survey (Numbers of cases counted separately for boys and girls)	'Injury' survey (Showing where the injuries were suffered and how many suffered what kind of injury and where)	'Survey on the children's skills for the horizontal
---	---	---

('Horizontal-bar' survey)

	Legging up	
Forward upward circling	Can do	Can't do
Can do	14	8
Can't do	5	3

iv) Draw up a table by classifying the results of the survey on rope-jumping.

	Cross-jump	
Double-jump	Can do	Can't do
Can do	9	4
Can't do	18	3

- The total number of persons given in the table is "34" which coincides exactly with the actual number of boys and girls in the class.

- The double-jump is more difficult than the cross-jump.

3. Summarize the various smart ways of classification

Points to be noted in making use of this program

- There are two ways of classifying things; to classify with regard to one item and to classify with regard to two items. In the case of the

latter, there are two different cases; one where there is an overlapping portion and the other where there is no such portion.

In this program, we first took up a case in which there was no overlapping portion and, using it as a starting point, went on to try to make the viewers think about the standpoint to be taken when there is an overlapping and also to have them consider how best the results of classifications may be summarized as a table.

- In the study of 'classification and summarization', we would like to attach importance to the 4 stages of Grasping the objectives → Deciding on the standpoint of classification → Classification → Presenting the results, and thereby to help the children tackle the 'classification and summarization' of things around them.

"Human Body - Breathing" - a science program for 6th-graders at primary schools

Broadcast on Sept. 30 (Friday) 10:45 - 11:00

Aims of the program

Check on the difference between the air exhaled and the air inhaled and think about the function of the lungs in their relation with the blood.

Content of the program

1. Think why it is that one gets out of breath when he takes exercise.
 - The phenomenon of one getting out of breath when he takes exercise is similar to that of one's heart throbbing faster when he takes exercise.
 - It appears that one needs more air when he takes exercise.
 - Where does the air inhaled go?
2. Observe the condition inside the chest
 - Look at the tube (windpipe) through which the air goes into the lungs.
 - The other end of the windpipe is split into numerous thin branches.
 - There are numerous tiny bags and thin veins spread all over within the lungs.

- What would become of the air that entered the lungs?
3. Compare the air exhaled with that of the air in the atmosphere and check on the difference.
- Put some exhaled air into a bottle and observe the way how a candle burns in the bottle in comparison with the way a candle burns in the atmosphere.
 - The candle in the exhaled air goes out faster than the candle in the atmosphere does.
 - The exhaled air might contain carbon dioxide.
 - When you exhale air into limewater, the limewater becomes white and cloudy.
 - When the above-mentioned breathing into limewater is done soon after the person takes hard exercise, the clouding of the limewater is faster.
 - That may be because of the difference in the volume of carbon dioxide contained in the exhaled air.
4. Re-examine the functions of the lungs
- In the lungs, oxygen is taken in and carbon dioxide is given out.
 - The reason the number of one's breathing increased after taking exercise was apparently that the lungs had to send more oxygen into the blood.
5. How much air is a human body inhaling each day?

テレビ・パブリックインフォメーション番組表

1982. 4. 1. ~ 1982. 5. 20実施
改訂1983. 1. 1. ~ 1983. 1. 1実施

地方局		全国版番組		第2放送番組
放送日	放送時刻	放送日	放送時刻	放送日
中継放送 ジャカルタ	8:00	毎週日曜朝	おはようインフォメーション	5, 8チャンネル 合同
	9:00		競技場から競技場	
	11:00		今週のニュースの焦点	
	11:15		人形劇	
	11:35		今週のアルバム	
	12:05		若者のコンサート	
	12:30		家族のための番組	
	14:00		日曜社の劇映画	

地方局番組	16:30	17:00	17:30	17:55	18:30	18:45	19:00	19:30	19:32	19:35	20:10	毎日
地方局番組	絵をたのしむ	遊び場 幼稚園 遊び場 幼稚園	さあ歌おう あなたの選んだ歌 さあ歌おう あなたの選んだ歌 さあ歌おう あなたの選んだ歌	人形の舞台 小さい屋 人形の舞台	子どもの広場 人形の舞台	音楽を育てる 歌唱を育てる	正しい知識 (小学生用)	子どものための おはなし	6チャンネル 8チャンネル の 合	6チャンネルと 8チャンネルの 合	6チャンネルと 8チャンネルの 合	6チャンネルと 8チャンネルの 合
中継番組ジャカルタ												
地方局番組	楽しい子どもの広場	楽しい子どもの広場(金曜版)	若者の劇 子どものための劇 若者の劇 子どものための歌 若者の劇	若者の劇 子どものための劇 若者の劇 子どものための歌 若者の劇	若者の劇 子どものための劇 若者の劇 子どものための歌 若者の劇	若者の劇 子どものための劇 若者の劇 子どものための歌 若者の劇	若者の劇 子どものための劇 若者の劇 子どものための歌 若者の劇	若者の劇 子どものための劇 若者の劇 子どものための歌 若者の劇	若者の劇 子どものための劇 若者の劇 子どものための歌 若者の劇	若者の劇 子どものための劇 若者の劇 子どものための歌 若者の劇	若者の劇 子どものための劇 若者の劇 子どものための歌 若者の劇	若者の劇 子どものための劇 若者の劇 子どものための歌 若者の劇
地域のニュース												
中継ジャカルタ												
地方局番組 今晩の番組												
中継放送ジャカルタ												
試験放送 1. 地方局番組 2. 中継ジャカルタ a. 宗教の教壇 b. 私たちの村、村から村へ												

世界ニュース		明日の番組	
地方放送局、明日の地方局番組		天気予報	
21:00		連続劇映画	連続劇映画
21:25		連続劇映画	連続劇映画
21:35		連続劇映画	連続劇映画
22:00	中継番組ジャカルタ	連続劇映画	連続劇映画
22:25		連続劇映画	連続劇映画
22:30		連続劇映画	連続劇映画
23:25		連続劇映画	連続劇映画
24:00	試験放送 地方中継 ジャカルタ	連続劇映画	連続劇映画

世界ニュース		明日の番組	
地方放送局、明日の地方局番組		天気予報	
21:00		連続劇映画	連続劇映画
21:25		連続劇映画	連続劇映画
21:35		連続劇映画	連続劇映画
22:00	中継番組ジャカルタ	連続劇映画	連続劇映画
22:25		連続劇映画	連続劇映画
22:30		連続劇映画	連続劇映画
23:25		連続劇映画	連続劇映画
24:00	試験放送 地方中継 ジャカルタ	連続劇映画	連続劇映画

世界ニュース		明日の番組	
地方放送局、明日の地方局番組		天気予報	
21:00		連続劇映画	連続劇映画
21:25		連続劇映画	連続劇映画
21:35		連続劇映画	連続劇映画
22:00	中継番組ジャカルタ	連続劇映画	連続劇映画
22:25		連続劇映画	連続劇映画
22:30		連続劇映画	連続劇映画
23:25		連続劇映画	連続劇映画
24:00	試験放送 地方中継 ジャカルタ	連続劇映画	連続劇映画

⑤ 日曜から土曜まで、区わけされているのは、第1週から第5週までの番組名

টিভি গাইড



টেলিভিশন প্রোগ্রাম - অক্টোবর - ডিসেম্বর ৮৩
TELEVISION PROGRAMME OCTOBER-DECEMBER 83

BTV 番組編成表 1983, Oct - Dec

Sunday		Monday	
6.00	Opening Announcement Al-Quran Programme Summary	6.00	Opening Announcement Al-Quran Programme Summary
6.15	Local News	6.15	Local News
6.20	Recitation from the Bible	6.20	Recitation from the Geeta
6.25	Patriotic Song	6.25	Patriotic Song
6.30	TV Coaching: Based on S.S.C. Syllabus	6.30	Cartoon: WOODY WOOD PACKER
7.00	Documentary Programme	7.00	a. ESHO BIGGANER RAJJEY (Fortnightly)
7.30	Nazrul's Song		b. KHELA DHULA (Fortnightly) Sports and Games
7.50	Today's Programme	7.30	Tagore Song
8.00	News in Bengali	7.50	Today's Programme
8.30	a. AMAR DESH (Fortnightly) b. JONO PORIKROMA ('')	8.00	News in Bengali
9.00	Film: HART TO HART	8.30	a. ANTARANGA ALQKEY (1st) b. MATAMAT (2nd & 5th) Viewer's Opinion
9.50	Next days' Programme		c. NOTUN BOI (3rd Week) Books Review
10.00	NEWS AT TEN: English News		d. PORIKKROMA (4th Week)
10.26	a. PROCHHOD (1st & 3rd Week) Based on Art & Elterature	9.00	a. CHHAYA CHHONDO (Fortnightly) Songs from Bengali Films
	b. IDANING (2nd & 5th Week) Magazine Programme		b. BORINALI (Fortnightly)
	c. PROBAHO (4th Week) Magazine Programme	10.00	NEWS AT TEN: English News
11.20	KHABOR: News in Bengali The News	10.25	Film: DYNASTY
11.30	a. Tomorrow's Programme b. Verses from Al-Quarn c. Closing Announcement d. National Flag & National Anthem	11.20	KHABOR: News in Bengali The News
11.35	Close down	11.30	a. Tomorrow's Programme b. Verses from Al-Quran c. Closing Announcement d. National Flag & National Anthem
		11.35	Close Down

Second Channel

6.00	Opening Announcement Al-Quran Programme Summary
6.15	a. PROCHHOD b. IDANING c. PROBAHO
7.05	Film: RICHARD DIAMOND
7.30	SURO BITAN
7.55	Tomorrow's Programme and Closing Announcement
8.00	Close Down

Second Channel

6.00	Opening Announcement Al-Quran Programme Summary
6.15	a. CHHAYA CHHONDO (Fortnightly) b. BORNALI (Fortnightly)
7.05	Film: ON VIEWER'S REQUEST
7.55	Tomorrow's Programme and Closing Announcement
8.00	Close Down

Tuesday		Wednesday	
6.00	Opening Announcement Al-Quran Programme Summary	6.00	Opening Announcement Al-Quran Programme Summary
6.15	Local News	6.15	Local News
6.20	Recitation from the Geeta	6.20	Recitation from the Geeta
6.25	Patriotic Song	6.25	Patriotic Song
6.30	TV Coaching: Based on S.C.C. Syllabus	6.30	Cartoon: BATTLE OF THE PLANETS
7.00	Film: DIFFERENT STROKES	7.00	a. GHOREY BAIRE (Fortnightly) Women's Programme
7.30	Nazul's Song	b. APNAR SHASTHO (Fortnightly) Health and Hygiene	
8.00	News in Bengali	7.30	HIJOL TOMAL: Folk Song
8.30	a. SUR SAGOR: Modern Song b. NRITTER TALEY TALEY (Last Week) Dance Programme	7.50	Today's Programme
9.00	Drama Series	8.00	a. BIGGAN BICHITRA (Fortnightly) b. DOSHDIGONTO
	a. SOKAL SONDHYA (Fortnightly) b. AMI-TUMI-SHEY (Fortnightly)	9.00	Film: THE MAN FROM ATLANTIS/ THE FALL GUY
9.50	Next day's Programme	9.50	Next day's Programme
10.00	NEWS AT TEN: English News	10.00	NEWS AT TEN: English News
10.25	Film: TRAPER JOHN MD	10.25	a. MONJORI (1st & 5th Week) b. JALSA (2nd & 4th Week) c. ANANDA ANANDA (3rd)
11.20	KHABOR: News in Bengali The News	11.20	KHABOR: News in Bengali The News
11.30	a. Tomorrow's Programme b. Verses from Al-Quran c. Closing Announcement d. National Flag & National Anthem	11.30	a. Tomorrow's Programme b. Verses from Al-Quran c. Closing Announcement d. National Flag & National Anthem
11.35	Close Down	11.35	Close Down
Second Channel		Second Channel	
6.00	Opening Announcement Al-Quran Programme Summary	6.00	Opening Announcement Al-Quran Programme Summary
6.15	a. DEKHA HOY NAI CHOKKHU MELIA b. AIN ADALOT	6.15	SPORTS PROGRAMME
6.40	Film: THE DICK POWEL THEATER	7.05	a. MONJORI b. JALSA c. ANANDA ANANDA Closing Announcement
7.05	Drama Series	8.00	Close Down
	a. SOKAL SHONDHYA (Fortnightly) b. AMI TUME SHEY (Fortnightly)		
7.55	Tomorrow's Programme and Closing Announcement		
8.00	Close Down		

Thursday

- 6.00 Opening Announcement
Al-Quran
Programme Summary
- 6.15 Local News
- 6.20 Recitation from the Geeta
- 6.25 Patriotic Song
- 6.30 a. SUNDOR JIBON (Fortnightly)
b. SOBAI MILE (Fortnightly)
- 7.00 JIBONER ALO: Religious
Programme
- 7.30 MOROMI: Devotional Song
- 7.50 Today's Programme
- 8.00 News in Bengali
- 8.30 a. UNIVERSITY MAGAZINE
b. MANCHITRO
- 9.00 a. RAJANI GONDHA
(1st Week)
b. MONIHAR (2nd Week)
c. HIRAMON (4th Week)
- 9.50 Next day's Programme
- 10.00 New AT TEN: English News
- 10.25 a. MOVIE OF THE WEEK
(1st, 2nd & 4th Week)
b. BENGALI FEATURE FILM
(3rd & 5th Week)
- 11.20 KHABOR: News in Bengali
The News
- 12.05 a. Tomorrow's Programme
b. Verses from Al-Quran
c. Closing Announcement
d. National Flag & National
Anthem
- 12.10 Close Down
Bengali Feature Film will start
at 8.30 p.m.

Second Channel

- 6.00 Opening Announcement
Al-Quran
Programme Summary
- 6.15 a. RAJANI GONDHA
b. MONIHAR
c. HIRAMON
- 7.05 Film: M'A'S'H
- 7.30 SURO LOHORI
Classical Music
- 7.55 Tomorrow's Programme and
Closing Announcement
- 8.00 Close Down

Friday

- 6.00 Opening Announcement
Al-Quran
Programme Summary
- 6.15 Local News
- 6.20 Recitation from the Tilpitak
- 6.25 Patriotic Song
- 6.30 Cartoon: THE LITTLEST HOBO
- 7.00 ALORPOTHE: Lessons on
Recitation from the Holy Quran
- 7.30 SURO BITAN: Modern Song
- 8.00 News in Bengali
- 8.35 AE SHOPTAHER NATOK
Drama of the Week
- 9.50 Next day's Programme
- 10.00 NEWS AT TEN
English News
- 10.25 Film: CHARLIE'S ANGELS/
KNIGHT RIDER
- 11.20 KHABOR: News in Bengali
The News
- 11.30 a. Tomorrow's Programme
b. Verses from Al-Quran
c. Closing Announcement
d. National Flag & National
Anthem
- 11.35 Close Down

Second Channel

- 6.00 Opening Announcement
Al-Quran
Programme Summary
- 6.15 a. Film: CHEERS
b. SPECIAL FILM SHOW
- 7.55 Tomorrow's Programme and
Closing Announcement
- 8.00 Close Down

Saturday

Morning session

9.00 Opening Announcement
Al-Quran
Programme Summary

9.15 News in Bengali

9.25 Cartoon: HANS CHRISTIAN
ANDERSEN

9.50 RUMJHUM
Children's Dance Lessons

10.15 Film: YOU ASKED FOR IT

10.40 a. KATHER MANUSH
(Fortnightly) Children's
Drama Series
b. NIRJHOR (Fortnightly)
Youth Programme

11.10 Film: STAR TREK

12.00 SPORTS PROGRAMME

2.00 Close Down

Saturday

6.00 Opening Announcement
Al-Quran
Programme Summary

6.15 Local News

6.20 Recitation from the Tripitak

6.25 Patriotic Song

6.30 AMRA NOTURN:
Children's Programme

7.00 Film BEWITCHED

7.30 Tagore Songs

7.50 Today's Programme

8.00 News in Bengali

8.30 a. DEKHA HOY NAI
CHOKKHU MELIA
(1st & 3rd Week)
b. AIN ADALOT (2nd & 4th)
c. ROVING REPORT (5th)

9.00 a. EKHONI (1st & 3rd Week)
b. JODIKCHHU MONE NA KOREN
(2nd & 4th Week)
c. JATTRANUSTHAN (5th)

9.50 Next day's Programme

10.00 NEWS AT TEN
English News

10.25 Film: DALLAS

11.20 KHABOR: News in Bengali
English News

11.30 a. Tomorrow's Programme
b. Verses from Al-Quran
c. Closing Announcement
d. National Flag & National
Anthem

11.35 Close Down

Second Channel

6.00 Opening Announcement
Al-Quran
Programme Summary

6.15 MUSICAL SHOW

7.05 a. EKHONI
b. JODI KICHU MONE NA
KOREN
c. JATTRANUSTHAN

7.55 Tomorrow's Programme and
Closing Announcement

8.00 Close Down

New Series

SUNDAY

SECOND CHANNEL

RICHARD DIAMOND

David Janssen battles tough guys soothes ruffled clients and charms beautiful women in fast-paced adventures of crime, mystery and courtroom drama. Quality production with top Hollywood guest stars and featuring the husky voice of Richard Diamond's answering service girl SAM.

DYNASTY

MONDAY

DYNASTY

Set in Denver, Colorado, this dramatic series is about the men and women who manipulate both wealth and power for their own ends. Stars John Forsythe, Linda Evans, Bob Hopkins, Pamela Sue Martin, Dale Robertson, Pamela Bellwood and Katy Kurtzman.

TUESDAY

DICK POWELL THEATER

Dramatic series, with story emphasis on action and adventure. Each episode features top Hollywood stars, including Dick Powell.

FRIDAY

KNIGHT RIDER

A young man cruises the highways in a computerized, indestructible car, in the timeless quest for righteousness and justice for criminals who are "above" the law.

SATURDAY

STAR TREK

Adventures of the USS Enterprise, a cruiser-size star ship, whose mission includes scientific investigation and reconnaissance of previously unexplored worlds, providing aid and supplies for earth colonies 200 years in the future. William Shatner stars as Capt. James Kirk, Leonard Nimoy as Mr. Spock and DeForest Kelly as Dr. McCoy.

Movie of the week

OCTOBER 6

THE TIME MACHINE

Cast: Rod Taylor, Yvette Mitrioux, Alan Young, Tom Holmore and Sebastlan Cabot.

Inventor of the Time Machine undertakes a journey into the infinity of the fourth dimension. Discovering life as it endures in 802, 701. Based on H.G. Wells novel.

OCTOBER 13

THE LONGEST HUNDRED MILES

Cast: Doug McClure, Katharine Ross and Ricardo Montalban.

American soldier, an Army nurse and a group of Filipino Children flee from Japanese invasion aided by a dedicated priest. Filmed entirely in the Philippines.

OCTOBER 20

BENGALI FEATURE FILM

OCTOBER 27

VENDETTA FOR THE SAINT

Cast: Roger Moore. Aiml Macdonald, Rosemary Baxter and Ian Hendry.

Director: James O Connolly.

Roger Moore, In his famous portrayal of Simon Templar, alias. The Saint finds himself waging a personal vendette against the dreard and powerful Mafia in Sicily.

The key, question facing Templar is who is Alessandro Destamio? Is he really a member of an aristocratic Sicilan family, as he claims, or is he a small time crook who has taken over, his identity? He is now anxious to secure the position of head of the Mafia when a gathering of Dons is called to elect a successor to the dying head. An added mystery is who the present head and where does he live? The Saint has to find out.

NOVEMBER 3

SPEED WAY

Cast: Elvis Presley, Nancy Sinatra, Bill Bixby and Gale Gordon.

Stock car racer with generous impulses and a wastrel manager, finds himself owing the Internal Revenue Service \$145,000 in back taxes.

NOVEMBER 10

NOTORIOUS

Cast: Cary Grant, Ingrid Bergman, Claude Rains and Lous Calhern.

Director: Alfred Hitchcock

Government agent and girl, whose father was convicted of treason, undertakes a dangerous mission to Brazil.

NOVEMBER 17

BENGALI FEATURE FILM

NOVEMBER 24

THE ODD COUPLE

Cast: Jack Lemmon, Walter Matthau, Herbert Edelman and John Fielder

Director: Gene Saks

Two men, one a bleary-eyed irresponsible slob, the other a weepy, fanatical house keeper in an apron, set up housekeeping in an eight-room apartment in New York City. Uproarious dialogue in the funniest domestic battle, of the century. Based on Neil Simon's hit Broadway play.

OR

SITUATION HOPELESS BUT NOT SERIOUS

Cast: Alec Guinness, Robert Redford and Anita Hoesfer.

Two American filters short down over: Germany take refuge in a cellar of a lonely shopclerk. Man deludes them with stories in pretense that war is still on, so he has some one to talk to. Eventually they escape. At belated Victory Party years later, their butler is their jaile friend. Based, the novel 'The Hiding Place', by Robert Shaw.

DECEMBER 1

ON A CLEAR DAY YOU CAN SEE FOREVER

Cast: Barbara Streisand, Yves Montand. Bob Newhar and Jack Nicholson.

Director: Vincent Minnelli

Young woman seeking to curb her chain smoking is accidentally hypnotized by the professor in a psychiatry class. Under hypnosis she becomes a noble woman who lived in England in the 1880's, a former incarnation. She also discovers she has ESP, has been reincarnated 13 times, predicts a 14th in this year 2038. Based on the Alan J. Lerner play.

OR

CAN YOU HEAR THE LAUGHTER?

Cast: Ira Augustain, Kevin Hooks, Ken Sylk, Devon Ericson and Julie Carmen.

By the time Freddie Prize was 18 years old, he was determined to leave his New York ghetto home in search of fame and an identity. Less than a year later he had won the hearts of millions of Americans as star of the television series "Chico and the Man". He died in 1977 at the height of his career. He was 22 years old.

CAN YOU HEAR THE LAUGHTER

DECEMBER 8

ARROWHEAD

Cast: Charlton Heston, Jack Palance.

Kary Jurado and Brian Keith.

Cavalry unit in Southwest attempts to sign treaty with Tonto Apache. Indian attacks lead to hand-to-hand combat between white man and his blood-brother' Indian leader.

DECEMBER 15

BENGALIFEATURE FILM

DECEMBER 22

SHANE

Cast: Alan Ladd, Jean Arthur, Van Heflin and Jack Palance.

Director: George Stevens

Wyoming, former gunfighter, determined to establish peaceful life must strap on his gun again in defense of homesteaders when open warfare threatens.

DECEMBER 29

BENGALIFEATURE FILM

Summary Report of the Technical
Follow-up Team for JICA Ex-participants
in Educational Television Programme Course

I. Introduction

Being dispatched by the Japan International Cooperation Agency as a part of its technical follow-up programme for the ex-participants in the Educational Television Programme Course, the team, consisting of three members as mentioned below, arrived Jakarta on October 11, 1983 and then continued its follow-up activities for the period of 10 days including 3 days in Yogyakarta.

Prior to the departure from the country, the team hereby intends to submit a summary report on the performance of its official duties for the purpose of reference by the officials and engineers of the authorities in the Government of Indonesia.

II. Team Members

- 1) Team Leader : Mr. Takayuki HATAZOE
Assistant Chief of Training Affairs Section
International Cooperation Division
Ministry of Post & Telecommunications
- 2) Technical Advisor: Mrs. Kyoko ITO
Senior Officer
Programme Production Training Division
Central Training Institute, Nippon Hoso Kyokai
- 3) Coordinator : Mr. Tamotsu YAMADA
Training Officer
Office for International Training Centres
Training Affairs Department
Japan International Cooperation Agency

III. Objectives

The dispatch of the team is principally aimed at reviewing, assessing and evaluating the fruit of the training in Japan through the personal

interviews with the ex-participants and their superiors in their offices.

The second purpose of the team is to hold a seminar to introduce the current topics in the field of educational T.V. programme in Japan to the ex-participants and the other officials concerned.

IV. Itinerary

- | | |
|---------|---|
| Oct. 11 | Arrival at Jakarta from Tokyo |
| 13 | Courtesy Meeting: Televisi Republik Indonesia (TVRI)
Ministry of Information |
| 14 | Seminar at TVRI |
| 15 | Observation of TVRI Facilities |
| 16 | Movement to Yogyakarta
Courtesy Visit & Observation of TVRI Yogyakarta Station |
| 17 | Seminar at TVRI Yogyakarta Station
Observation of Radio & Television Training Center Project |
| 18 | Movement to Jakarta |
| 20 | Leave Jakarta for Bangkok |

V. Participants List of Courtesy Meeting Jakarta

- 1) Mr. R.M. Arifin
Director, TVRI
- 2) Mr. Sadullah
Manager, TVRI Jakarta Station
- 3) Mr. Dewabrata
Head, Engineering Dev., TVRI

- 4) Mr. Wiedjayanto
Programme Director of Educational Broadcasting, 1982
- 5) Mrs. Moedjiati Oetoro
Chief of the Educational Production Section, 1977
- 6) Mrs. Yesnil Kasakeyan
Technical Assistant on Operation, 1982
- 7) Mr. Widayat Mosantoso
Head, Maintenance Div., 1982
- 8) Mr. Mardanis
Chief, Technical Engineering, 1968
- 9) Mr. Sunjoto Suwanto
Head, Programming of Education, 1982
- 10) Mr. Manan
Technical Staff, 1982
- 11) Mr. Hoetojo Hoerip
Head, TVRI Training Center, 1976
- 12) Mr. S.H. Sukanto
Head, Film, program planning Dept.

VIII. Opinions on JICA Training Course by Ex-participants

On JICA training course in Educational Television Programme Course, all the ex-participants admitted it useful.

About the points to be improved of the course, we found many opinions that more practices on respective curriculum items should be adopted and duration of the course should be extended due to the more practical training needed.

Moreover, there were opinions that as being the level differences among participants, it is desirable to be separated the course into the regular level and advanced level.

On the other hand, as for the necessity of Japanese language programme prior to the main training, there were both opinions that it should be expanded and should be cut off.

IX. The Impression of the Team after the Visit to the Indonesian Television Authority

Through the discussion with high-ranking officers and ex-participants, we felt strong necessity to continue or rather to expand the course, if possible, as well as other courses in the field of broadcasting.

The reason why we felt like that is as the following points:

1. The ratio of programmes produced by local stations is nearly 40% which is far higher in comparison with Japanese.

That means many producers required not only at Jakarta but also at local stations.

2. New Training Center at Yogyakarta is being established in collaboration with Japanese Government.
3. We heard there is a plan that the introduction of new educational programme broadcasting is under consideration.

Finally, we owe much to the willingness of the Indonesian Ministry of Information, Televisi Republik Indonesia and related organizations, Japanese Embassy and the cooperation of JICA Jakarta Office for our team.

Particularly, we have no words to express our gratitude for Mr. Hoetoj Hoerip (Head of TVRI Training Center) kindness and warm hospitality who accompanied and took care us all of the journey.

October 20, 1983



(Mr. Takayuki HATAZOE)

Team Leader
Technical Follow-up Team
for JICA Ex-participant in
Educational T.V. Programme Course

Summary Report of The Technical
Follow-up Team for JICA Ex-
participants in Educational
Television Programme Course

I. Introduction

Being dispatched by the Japan International Cooperation Agency as a part of its technical follow-up programme for the ex-participants in the Educational Television Programme Course, the team, consisting of three members as mentioned below, arrived Dhaka on October 21, 1983 and then continued its follow-up activities for the period of 5 days.

Prior to the departure from the country, the team hereby intends to submit a summary report on the performance of its official duties for the purpose of reference by the officials and engineers of the authorities in the Government of Bangladesh.

II. Team Members

- 1) Team Leader : Mr. Takayuki HATAZOE
Assistant Chief of Training Affairs Section
International Cooperation Division
Ministry of Post & Telecommunications
- 2) Technical Advisor: Mrs. Kyoko ITO
Senior Officer
Programme Production Training Division
Central Training Institute,
Nippon Hoso Kyokai
- 3) Coordinator : Mr. Tamotsu YAMADA
Training Officer
Office for International Training Centres
Training Affairs Department
Japan International Cooperation Agency

III. Objectives

The dispatch of the team is principally aimed at reviewing, assessing and evaluating the fruit of the training in Japan through the personal

interviews with the ex-participants and their superiors in their offices.

The second purpose of the team is to hold a seminar to introduce the current topics in the field of educational T.V. programme in Japan to the ex-participants and the other officials concerned.

IV. Itinerary

- Oct. 21 Arrival at Dhaka from Bangkok
- 22 Visit to Embassy of Japan & JICA office
- 23 Courtesy Visit to ERD, Ministry of Finance and Ministry of
 Information & Broadcasting
 Courtesy Visit & Observation to Bangladesh Television (BTV)
- 24 Seminar with Ex-participants to Japan
- 25 Leave Dhaka for Japan

V. Participants List of Courtesy Meeting

- 1) Mr. Haharuddin Ahmed
 Deputy Secretary, ERD, Ministry of Finance
- 2) Mrs. Humairs Khan
 Research Officer, ERD, Ministry of Finance
- 3) Mr. Hamed Shafiul Islam
 Joint Secretary, Ministry of Information & Broadcasting
- 4) Mr. Sadduddin Ahmed
 Chief Engineer, BTV
- 5) Miss Khalida Fahmi
 Director of Programmes, BTV
- 6) Mr. Mustafa Kamal Sayed
 General Manager, BTV
- 7) Mr. Atiqul Huq Chowdhury
 Programme Manager, BTV
- 8) Mr. Mustafizur Rahman
 Programme Manager, BTV

VI. Participants List of a Seminar on "Current Topics of Educational T.V. Programme in Japan" at Dhaka

(Name, Position, Year of Participation to Japan)

- 1) Mr. Mominul Huq
Executive Producer 1973
- 2) Mr. Md. Zakaris
Rtd. Programme Manager 1974
- 3) Mrs. Badrunessa Abdulah
Executive Producer 1975
- 4) Mr. Qazi Abdul Quyum
Executive Producer 1977
- 5) Mr. Nawazish Ali Khan
Executive Producer 1978
- 6) Mr. K.A.Z. Siddiqui
Executive Producer 1980
- 7) Mr. Musa Ahmed
Executive Producer 1981
- 8) Mr. Nasiruddin Yusuf
Producer 1982

VII. Opinions on JICA Training Course by Ex-participants

On the JICA training course in Educational Television Programme Course, all the ex-participants admitted it useful.

As the points to be improved of the course, we found many opinions that more practices on respective curriculum items should be adopted and duration of the course should be extended due to the more practical training needed.

Moreover, there were opinions that as being the level differences among participants, it is desirable that all the participants have almost equal knowledge and experience to enhance the effect of the training.

In addition to it, there were such opinions as follows,

- To meet respective country's circumstance, the individual training

should be inserted in the group training.

- . It is desirable to have an opportunity to brush-up the knowledge in such a way like re-training in Japan.
- . To improve the situation of educational T.V. Programme, more number of the latest equipment, staff are required.

VIII. The Impression of the Team after the Visit to the Bangladesh Television Authority

First of all, we would like to pray for the bliss of Mr. Abdullah Yusuf's death, though we could meet ex-participants.

Through the discussion with high-ranking officers and ex-participants, we felt strong necessity to continue or rather to expand the course, if possible, as well as other courses in the field of broadcasting.

We may promise to inform your valuable opinions to JICA & Government of Japan in order to improve the course.

Finally, we owe much to the willingness of the Bangladesh Ministry of Finance, Information & Broadcasting, BTV and related organizations, Japanese Embassy and the cooperation of JICA Dhaka office for our team.

Particularly, we have no words to express our gratitude for BTV staffs' kindness and warm hospitality who accompanied and took care us all of the journey.

Thanking you

October 25, 1983



(Mr. Takayuki HATAZOE)
Team Leader
Technical Follow-up Team
for JICA Ex-participants
in Educational T.V.
Programme Course

PART I

QUESTIONNAIRE

To: Ex-participants in the Educational T.V. Programme Course

Please reply the following questions. In order to improve the future programme of the course, your frank opinions and suggestions are eagerly welcomed.

(Please write in block letters or typewrite.)

I. General Questions

(1) Name (Please underline surname.)

(2) Date of birth

(3) Home address

(4) Year of your participation: 19

(5) Occupation

a) Office name

b) Office address

c) Your present position

d) Please describe your duties in the present service.

e) Please draw a chart of the organization (Starting from a "division/section" as the lowest level), and indicate your section in an annexed paper (I).

f) Please explain the main service of each section in the above mentioned chart, in an annexed paper (II).

g) Employment record since the time of your participation

Duration of service	Position	Organization
-		
-		
-		
-		
- Present		

h) Please describe the connection between your present duties and the training you attended in Japan, if any.

i) If you are facing any technical problem, please describe it.

II. Questions on the course you attended

(1) Please describe the process until you came to Japan.

a) In what way did you come to know the name of the course?

b) Who had mainly decided your participation in the course?

c) Did you find any difficulty in all the process of application and emmigration? If any, please comment it.

(2) As you know, this course is programmed to introduce the general knowledge in the field to you, we would like to know your frank opinions and suggestions on the following items.

a) In what part were you interested most among the course programme at that time?

b) What interests you most now in the field?

c) What part of the programme has been most beneficial to you, concerning your present or previous position?

d) Please show examples you could make use of the knowledge and experiences acquired in Japan. (If no, please give the reason.)

e) What part do you think is essential in the course programme?

f) What subject would you like to add to the programme?

g) Then, what part do you think is to be cut off from the programme?

h) Any other comments on the programming:

(3) Please state your proposals concerning the following points, if any.

- a) Pre-course information
- b) Duration and season
- c) Level and background of the other participants
- d) Number of participants
- e) Arrangement
- f) Lecturers
- g) Discussions
- h) Practical training
- i) Observation
- j) Facilities and so forth:

(4) Was there any special personnel promotion or treatment because of participation in the course?

(5) Did you participate in another training course in Japan or in the other countries? If yes, please describe it.

III. Questions on the follow-up service for ex-participants of JICA

(1) What kind of follow-up service or after-care do you want from Japan?

a) Literature and technical information

b) Equipment

c) Technical consultation through letters or dispatch of technical experts

d) Re-training

(2) Is there any other follow-up action you wish to be taken by Japan?

IV. Questions on further relationship between your country and Japan

(1) Do you have any sort of contact with other ex-participants in the same course? If any, please mention it.

- (2) Do you have any relationship with Japan in your present job?
- (3) If you have any request or suggestion to the Japan International Cooperation Agency, NHK (Japan Broadcasting Corporation), please describe it.

Thank you very much for your cooperation.

The Technical Follow-up Team for JICA Ex-
participant in Educational Programme Course
for Indonesia & Bangladesh

ANNEXED PAPER (I)

Chart of your organization

ANNEXED PAPER (II)

Main service of each section

PART II

QUESTIONNAIRE
FOR
THE AUTHORITY CONCERNED

Japan International Cooperation Agency
Ministry of Posts & Telecommunications
The Government of Japan

Japan International Cooperation Agency and Ministry of Posts & Telecommunications of the Government of Japan would like to ask the authority concerned to reply this questionnaire in order to improve the course in future.

(Please write in block letters or typewrite.)

Your Name (Please underline surname.)

Present Post

Name of Organization

JICA